

1章・参考・引用文献

青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>)

安曇村誌編纂委員会 (1998a) : 安曇村誌, 第一巻, 自然, 718p.

安曇村誌編纂委員会 (1998b) : 安曇村誌, 第三巻, 歴史下, 833p.

安部剛・斎藤克浩・荻田滋 (2010) : 山形県肘折カルデラ周辺の地すべりダムの特徴と対応事例, 日本地すべり学会誌, 47巻6号, p.53-59.

安部真郎・林一成 (2011) : 近年の大規模地震に伴う地震地すべりの運動形態と地形・地質的発生の場, 日本地すべり学会誌, 48巻1号, p.52-61.

阿部勇治・阿部美和 (2009) : 鈴鹿山脈北部, 大君ヶ畑地区にみられる天然ダム湖堆積物, 地球惑星科学関連学会2009年合同学会予稿集, Y229-010

安間荘 (1987) : 事例からみた地震による大規模崩壊とその予測手法に関する研究, 東海大学学位論文, 205p.

飯田汲事 (1979) : 明応地震・天正地震・宝永地震・安政地震の震害と震度分布, 愛知県防災会議地震部会, 109p.

飯田汲事 (1987) : 天正大地震誌, 名古屋大学出版会, 580p.

ICIMOD (2011) : Glacial Lakes and Glacial Lake

Outburst Floods in Nepal, 97p.

井上公夫 (1997) : 流域の地形特性と土砂災害, 1996年12月6日蒲原沢土石流調査報告書, 地盤工学会蒲原沢調査団, p.2-11.

井上公夫 (1998) : 北陸地方における地震などに起因した大規模土砂移動の事例紹介, 北陸の建設技術, p.24-27.

井上公夫 (2003) : 御岳崩れとデザスターマップ (災害実績図), 測量, 2003年10月号, p.52-56.

井上公夫 (2004a) : III2 地震, 地すべりに関する地形地質用語委員会編 (2004) : 地すべり, 一地形地質的認識と用語一, 日本地すべり学会, p.219-248.

井上公夫 (2004b) : イタリア・バイオントダムの被災地を訪ねて, 測量, 2004年12月号, p.36-38.

井上公夫 (2005a) : 地震に起因した土砂災害地点を訪ねて, 一関東地震 (1923年) と北伊豆地震 (1930年) に学ぶ一, Fukadaken Library, 70号, 73p.

井上公夫 (2005b) : 中越地震と河道閉塞による湛水 (天然ダム), 測量, 2005年2月号, p.7-10.

井上公夫 (2005c) : 河道閉塞による湛水 (天然ダム) の表現の変遷, 地理, 50巻2号, p.8-13.

井上公夫 (2006) : 建設技術者のための土砂災害の地形判読実例問題中・上級編, 古今書院, 142p.

井上公夫 (2007a) : 1章3節 土砂災害, 1章4節 天然ダムの形成と決壊洪水, 中央防災会議, 災害教訓の継承に関する専門調査会 : 1847善光寺地震報告書, p.46-66.

井上公夫 (2007b) : 映画『掘るまいか 手掘り中山隧道の記録』の地形的背景, 一旧版地形図から山古志の地形と歴史を読む一, 地理, 52巻8号, 口絵p.1-4, 本文p.62-73.

井上公夫 (2008a) : 日本と世界の天然ダム(河道閉塞)による土砂災害の事例紹介, 第20回日本地すべり学会特別セッション, テーマ「中国四川大地震/岩手・宮城内陸地震」

井上公夫 (2008b) : 震災地応急測図原図と土砂災害, 歴史地震研究会 (2008) : 地図にみる関東大震災, 日本地図センター, p.18-39, p.50-61.

井上公夫 (2009) : 大規模天然ダムの形成と決壊洪水の事例紹介, 地球惑星科学関連学会2009年合同学会予稿集, Y229-001

井上公夫 (2011) : 日本の天然ダム事例の紹介, 自然災害科学, 特集記事天然ダム研究の最前線, 自然災害科学, 30巻3号, p.304-311.

井上公夫・今村隆正 (1999) : 高田地震 (1751) と伊賀上野地震 (1854) による土砂移動, 歴史地震, 15号, p.107-116.

井上公夫・今村隆正・西山昭仁 (2002) : 琵琶湖西岸地震 (1662) と町居崩れによる天然ダムの形成と決壊, 平成14年度砂防学会研究発表会講演集, p.324-325.

井上公夫・南哲行・安江朝光 (1987) : 天然ダムによる被災事例の収集と統計的分析, 昭和62年度砂防学会研究発表会概要集, p.238-241.

井上公夫・向山栄 (2007) : 建設技術者のための地形図判読演習帳, 古今書院, 82p.

井上公夫・森俊勇・伊藤達平・我部山佳久 (2005) : 1892年に四国東部で発生した高磯山と保勢の天然ダムの決壊と災害, 砂防学会誌, 58巻4号, p.3-12.

Inoue K., Mizuyama T. & Mori T. (2010) : The Catastrophic Tombi Landslide and Accompanying Landslide Dams Induced by the 1858 Hietsu Earthquake, Journal of Disaster Research, Vol.5, No.3, P.245-256.

今村隆正・井上公夫・西山昭仁 (2002) : 琵琶湖西岸地震 (1662年) と町居崩れによる天然ダムの形成と決壊, 歴史地震, 18号, p.52-58.

井口隆・八木浩司 (2010) : 会津地震 (1611年) によって発生した地すべり変動, 日本地すべり学会誌, 47巻6号, p.60-62.

茨城県砂防課 (1994) : 茨城県北茨城市地すべり及び河道埋塞災害, 二次災害の予知と対策, No.6, p.180-185.

植木岳雪・永田秀尚・小嶋智・沼本晋也・飯島文男 (2011) : 紀伊半島中部, 富士川流域における山体崩壊の発生時期と発生頻度; せき止め湖堆積物を用いて, 日本第四紀学会講演要旨集2011年大会, p.44-45.

宇佐美竜夫 (1987,96) : 新編日本被害地震総覧, 及び増補改定版416-1995, 東京大学出版会, 434p.

岡岡良介・松富英夫・風間聡・金子和亮・小松順一・千葉則行 (2009) : 第5章 構造物の被害—河道閉塞, 平成20年岩手・宮城内陸地震4学協会合同調査委員会 : 平成20年(2008年)岩手・宮城内陸地震災害調査報告書, p.260-272.

内田太郎・松岡暁・松本直樹・松田如水・秋山浩一・田村圭司・戸欣也 (2009) : 天然ダムの越流侵食の実態 : 宮城県三迫川沼倉裏沢の事例, 砂防学会誌62(3), 23-29.

愛媛大学「四国防災八十八話」編集委員会 (2008) : 先人の教えに学ぶ四国防災八十八話, 国土交通省四国地方整備局, 204p.

大分県砂防課 (1994a) : 大分県日田郡天瀬町山腹崩壊及び河道埋塞災害, 二次災害の予知と対策, No.6, p.170-174.

大分県砂防課 (1994b) : 大分県南海郡本匠村河道埋塞災害, 二次災害の予知と対策, No.6, p.191-196.

太田陽子 (2012) : 書評 水山高久監修, 森俊勇・坂口哲夫・井上公夫編著 : 日本の天然ダムと対応策, 地理学評論, 85巻4号, p.412-413.

大町市史編纂委員会 (1984) : 大町市史, 第一巻, 自然環境, 1239p.

大町市史編纂委員会 (1985) : 大町市史, 第四巻, 近代・現代, 1315p.

大八木規夫 (2000-06) : 地すべり地形の判読, Fukadaken News, No.1~18

大八木規夫 (2007) : 地すべり地形の判読法, 一空中写真

- をどう読み解くかー, 近未来社, 316p.
- 大橋良一 (1915): 大正三年, 秋田地震ニテ, 震災予防調査報告, 82号, p.37-42, 及び, 図, 写真
- 小川内良人・大坪俊介・橋本純・笠井史宏・宮城豊彦 (2009): 第4章 地盤災害 一迫川上流域の地すべり・崩壊の概要, 平成20年岩手・宮城内陸地震4学協会合同調査委員会: 平成20年(2008年)岩手・宮城内陸地震災害調査報告書, p.80-85.
- 沖津進・安田正二編著 (2010): 亜高山・高山域の環境変遷, 一最新の成果と展望一, 日本地理学会, 86p.
- 奥田秀夫 (1972): バイオントダム地すべりのその後の経緯, 地すべり, 8巻3号, p.26-29.
- O'Connor J.E. & Costa E. (2004): The World's Largest Floods, Past and Present: Their Causes and Magnitudes, U.S.G.S., Circular 1254, 13p.
- 尾沢建造・杉本好文・高橋忠治 (1975): 北アルプス小谷ものがたり, 信濃路, 243p.
- 尾崎雅篤 (1966): バイオントダムの地すべりについて, 地すべり, 2巻2号, p.26-29.
- 尾田榮章 (2009): 古代の水管理体制一荒(麓)玉河一, “記紀と続記”の時代を『水』で読み解く(25), 河川, 2009年1月号, p.80-86.
- 尾田榮章 (2009): 古代の水管理体制一荒(麓)玉河(2)一, “記紀と続記”の時代を『水』で読み解く(27), 河川, 2009年2月号, p.74-81.
- 尾田榮章 (2009): 古代の水管理体制一荒(麓)玉河(3)一, “記紀と続記”の時代を『水』で読み解く(28), 河川, 2009年3月号, p.73-80.
- 鏡村 (1976): かがみ広報, 台風17号特集, No.30
- 加茂豊策 (2009): 遠江地震と天竜川の変遷, 100号, p.67-79.
- 荻谷愛彦 (2010): 北アルプス周辺の大規模地すべりと古環境変遷, 沖津進・安田正二編著 (2010): 亜高山・高山域の環境変遷, 一最新の成果と展望一, 日本地理学会, p.22-37.
- 川邊洋・権田豊・丸井英明・渡部直喜・土屋智・北原曜・小山内信智・笹原克夫・中村良光・井上公夫・小川喜一郎・小野田敏 (2005): 2004年新潟県中越地震による土砂災害(速報), 砂防学会誌, 57巻5号, 口絵, 及び, p.45-52.
- 川邊洋・権田豊・丸井英明・渡部直喜・土屋智・北原曜・内田太郎・栗原淳一・中村良光・井上公夫・小川喜一郎・小野田敏 (2005): 新潟県中越地震による土砂災害と融雪後の土砂移動状況の変化, 砂防学会誌, 58巻3号, 口絵, 及び, p.44-50.
- 北沢秋司 (1986): 長野県西部地震における河道埋塞の事例, 二次災害の予知と対策, No.1, p.33-62.
- Cruden, D.M. & Varns, D.J. (1996): Landslide types and processes, in edited by Turner, A.K., & Schuster, R.L., Landslides Investigation and Mitigation, TRB - National Research Council, Special Report, No.247, p.36-75.
- 黒川将・岩田英也・柴崎達也・大野亮一・小澤幸彦・寺村保 (2010): 平成20年(2008年)岩手・宮城内陸地震で発生した増沢地区の地すべりと地すべりダムの調査結果, 日本地すべり学会誌, 47巻6号, p.33-40.
- 建設省越美山系砂防事務所 (1999): 越美山系の地震と土砂災害, 一濃尾地震(M=8.0)とその後の土砂移動一, 日本工営株式会社, 32p.
- 建設省河川局砂防部 (1995): 地震と土砂災害, 砂防広報センター, 61p.
- 建設省土木研究所砂防部砂防研究室 (1997): 地震による大規模土砂移動現象と土砂災害の実態に関する研究報告書, 261p.
- 建設省土木研究所新潟試験所 (1992): 大所川巨礫調査報告書, 土木研究所資料, 3107号, 62p.
- 建設省中部地方建設局 (1987): 昭和61年度震後対策調査検討業務, 天然ダムによる被災事例調査実例資料の統計的分析, (財)砂防・地すべり技術センター, 145p.
- 建設省中部地方建設局河川計画課 (1987): 天然ダムによる被災事例調査事例集, 119p.
- 国土開発研究センター編 (2010): 改訂版貯水池周辺の地すべり調査と対策, 古今書院, 口絵, 8p., 本文, 286p.
- 国土交通省河川局 (2005): 国土交通省河川砂防技術基準同解説, 計画編, 230p.
- 国土交通省河川局砂防部監修 (2005): 平成17年9月台風14号豪雨により各地で発生した土砂災害, NPO法人砂防広報センター
- 国土交通省国土技術政策総合研究所・(独)土木研究所 (2008): 平成20年岩手・宮城内陸地震によって発生した土砂災害の特徴, 土木技術資料, 50巻10号, p.34-39.
- 国土交通省四国山地砂防事務所 (2004): 四国山地の土砂災害, 日本工営株式会社, 68p.
- 国土交通省多治見工事事務所 (2002): 御岳崩れ, Ontake Landslides and Debris Avalanche induced by the 1984 Earthquake at Mount Ontake, 日本工営株式会社, 日本語版, 12p., 英語版, 12p.
- 国土交通省中部地方整備局富士砂防事務所 (2007): 富士山周辺の地震と土砂災害, 日本工営株式会社, 72p.
- 国土交通省北陸地方整備局 (2004a): 「平成16年新潟県中越地震」による被害と復旧状況(平成16年11月15日現在), 16p.
- 国土交通省北陸地方整備局 (2004b): 「平成16年新潟県中越地震」による被害と復旧状況(第2報)～復旧から復興へ～, (平成16年12月28日現在), 16p.
- 国土交通省松本砂防事務所 (2003): 松本砂防管内とその周辺の土砂災害, 48p.
- 国土交通省湯沢砂防事務所 (2001): 湯沢砂防の管内とその周辺の土砂災害, 日本工営株式会社, 44p.
- 国土地理院 (2004年10月29日作成): 新潟県中越地震災害状況図, 縮尺, 1/30,000
- 国土地理院 (2004年11月01日作成): 新潟県中越地震災害状況図, 縮尺, 1/30,000
- 国土地理院 (2004年11月12日作成): 新潟県中越地震災害状況図, 縮尺, 1/30,000
- 小嶋智・諏訪浩・横山俊治コンビーナ (2009): 地すべりダムとせき止め湖: 形成から発展, 消滅まで(セッション名: Y229), 地球惑星科学関連学会2009年合同学会予稿集
- 小嶋智・永田秀尚・近藤遼一・野崎保・鈴木和博・池田晃子・中村俊夫・大谷具幸 (2009): 富山県下のせき止め湖堆積物の特徴および形成史, 地球惑星科学関連学会2009年合同学会予稿集, Y229-007
- 小林惟司 (2005): 寺田寅彦と地震予知, 東京図書, 297p.
- J.Costa (1988): Floods From Dam Failure, Floods Geomorphology, p.436-439.
- 古代中世地震史料研究会 (2009): [古代・中世]地震・噴火史料データベース, 静岡大学防災総号センター
- 後藤(桜井)晶子・村松武・寺岡義春 (2009): 長野県南部, 遠山川の堰き止め湖跡から得られた埋れ木の年代測

- 定, 地球惑星科学関連学会2009年合同学会予稿集, Y229-P001
- 斎藤隆志 (2009): せき止め湖を生じる可能性のある崩壊・土石流の発生位置の予測手法, 地球惑星科学関連学会2009年合同学会予稿集, Y229-002
- 斎藤豊 (1978): 姫川断層と小土山地すべり, 信州大学教育学部紀要, 30号, p.203-214.
- 坂井亜規子・西村浩一・竹内望 (2009): ヒマラヤの水河湖の急速拡大開始について, 地球惑星科学関連学会2009年合同学会予稿集, Y229-011
- 坂部和夫 (2002): 天正地震 (1586年) 時の飛騨白川における大規模山体崩壊による庄川の堰き止めとその浸水域, 歴史地震, 18号, p.44-49.
- 佐々木美紀 (2002): 情報の散歩道, 日本の天然ダムと対応策, 砂防と治水, 205号, p.133.
- 砂防学会 (1998): 平成9年度地震による伊豆半島の土砂災害調査業務委託報告書, 148p.
- 鷲谷威 (2002): 1914年秋田仙北地震に伴う地殻変動, 日本地震学会講演予稿集秋季大会, p.288
- 桜田勉・鈴木啓介 (2010): 岩手・宮城内陸地震への対応とその後について, 砂防学会誌, 63巻3号, p.54-59.
- 三六災害50年誌編集委員会 (2011): 想いおこす三六災害, 一三六災害から50年一, 中部建設協会, 127p.
- 産業技術総合研究所地質調査研究センター (2010年版): 20万分の1日本シームレス地質図, 基本版
- 信濃教育会北安曇支部 (1979): 北安曇郡郷土誌稿, 第1輯, 口碑傳説編, 第一冊, 198p.
- 澁谷拓郎・久保田哲也・塩野計司・諏訪浩・寒川典昭・吉田雅穂・米山望 (2006): オープンフォーラム「宮城県沖地震対策の現状と課題〜いま, 宮城県沖地震を迎え撃てるか〜», 自然災害科学, 25巻1号, p.3-34.
- 宍倉正展・遠田晋次・荻谷愛彦・永井節治・二階堂学・高瀬信一 (2002): 地形・地質調査から明らかになった木曾谷における13世紀頃の地震, 歴史地震, 18号, p.42-43.
- 宍倉正展・二階堂学・臼井武志・徳光雅章・木曾教育研究会 (2006): 木曾山脈・大榎入山で発見された大規模山体崩壊跡, 第四紀研究, 45巻6号, p.479-587.
- 宍倉正展・澤井祐紀・行谷佑一・岡村行信 (2010): 平安の人々が見た巨大津波を再現する, 一西暦869年貞観津波一, AFERC NEWS, 16号, p.1-10. 産業技術総合研究所 活断層・地震研究センター
- 信州長野市信更町湧池区 (2011) 善光寺地震と虚空蔵山の崩壊, 一弘化四年そのとき湧池でなにが起きた一, 187p.
- 鈴木堯士 (2003): 寺田寅彦の地球観, 一わすれてはならない科学者一, 高知新聞社, 299p.
- Schuster, R.L.(1986): Landslide Dams: Processes, Risk and Mitigation, Geotechnical Special Publication, No.3, American Society of Civil Engineers, 163p.
- Strahler, A.H. (1952): Hypsometric (area-altitude) analysis of erosional topography., Geol. Soc. Am. Bull. Vol.63, p.1117-1142.
- Strom, A.(2010): Landslide dams in Central Saia region, 日本地すべり学会誌, 47巻6号, p.1-16.
- 島通保 (1987): 兵庫県一宮の地すべり, 二次災害の予知と対策, No.2, p.101-123.
- 島根県砂防課 (1994): 島根県浜田市地すべり及び河道埋塞災害, 二次災害の予知と対策, No.6, p.163-169.
- 鈴木和博・中村俊夫・加藤典典・池田晃子・後藤晶子・小田寛貴・南雅代・上久保寛・梶塚泉・足立香織・壺井基裕・常磐哲也・太田友子・西田真砂美・江坂直子・田中敦子・森忍・Dunkley, D.J.・Kusiak, M.A.・鈴木里子・丹生越子・中崎峰子・仙田量子・金川和世・熊沢裕代 (2008): 恵那市上矢作町の地名「海」は天正地震の堰止め湖に由来した, 名大加速器質量分析計業績報告書, 19号, p.27-38.
- Strahler (1952): Hypsometric (area-altitude) analysis of erosional topography., Geol. Soc. Am. Bull. Vol.63, p.1117-1142.
- 総理府地震調査研究推進本部地震調査委員会編 (1999): 日本の地震活動, 一被害地震から見た地域別の特徴一, 追補版, 地震予知総合研究振興会, 391p.
- 田方郡教育長会・校長会・教育研究会 (1981): 昭和5年の北伊豆地震に学ぶ, 165p.
- 高橋保 (1988): 昭和40年奥越豪雨災害, 一真名川の河道埋塞一, 二次災害の予知と対策, 全国防災協会, No.3, p.7-23.
- 武居有恒 (1987): 河道埋塞に関する事例研究, 一昭和28年有田川水害一, 二次災害の予知と対策, No.2, p.47-71.
- 武村雅之 (2009): 未曾有の大災害と地震学, 一関東大震災一, シリーズ繰り返す自然災害を知る・防ぐ, 第6巻, 古今書院, 210p.
- 谷口義信・内田太郎・大村寛・落合博貴・海堀正博・久保田哲也・笹原克夫・地頭菌隆・清水収・下川悦郎・寺田秀樹・寺本行芳・日浦啓全・吉田真也 (2005): 2005年9月台風14号による土砂災害, 砂防学会誌, 58巻4号, p.46-53.
- 田畑茂清・池島剛・井上公夫・水山高久 (2001): 天然ダム決壊による洪水のピーク流量の簡易予測に関する研究, 砂防学会誌, 54巻4号, p73-76.
- 田畑茂清・水山高久・井上公夫 (2002): 天然ダムと災害, 古今書院, 口絵カラー, 8p., 本文, 205p.
- 田村俊和 (2012): 書評・紹介 水山高久監修, 森俊勇・坂口哲夫・井上公夫編著: 日本の天然ダムと対応策, 地学雑誌, 121巻1号, N1-2
- WP/WLI. (1993): A suggested method for describing the activity of a landslide, Bulletin of the International Association of Engineering Geology, No.47, p.53-57.
- 地すべりに関する地形地質用語委員会編 (2004): 地すべり, 一地形地質的認識と用語一, 日本地すべり学会, 318p.
- 千木良雅弘 (1998): 災害地質学入門, 近未来社, 206p.
- 千木良雅弘 (2007): 崩壊の場所〜大規模崩壊の発生場所予測, 近未来社, 73p.
- 千葉則行・井良沢道也・加藤彰・瀬野孝浩・三上登志男・宮城豊彦・笠井史宏 (2009): 第4章 地盤災害 磐井川で発生した地すべり・崩壊, 平成20年岩手・宮城内陸地震4学協会合同調査委員会: 平成20年(2008年)岩手・宮城内陸地震災害調査報告書, 86-89.
- 千葉幹・森俊勇・内川龍男・水山高久・里深好文 (2007): 平成18年台風14号により宮崎県耳川で発生した天然ダムの決壊過程と天然ダムに対する警戒避難のあり方に関する提案, 砂防学会誌, 60巻1号, p.43-47.
- 辻和毅 (2006): 東南チベット・易貢措 (インゴンツオ) の天然ダムと大洪水, 地理, 51巻8号, 表紙, 口絵p.1-4, 本文p.91-103.
- 土屋智 (200a): 3.2 大谷崩, 地震砂防, 古今書院, p.28-32.
- 土屋智 (200b): 3.4 白鳥山崩壊, 地震砂防, 古今書院, p.35-37.
- 都司嘉宣 (2009): 安政東海・南海地震 (1854) による河

- 川閉塞, および新湖出現記録, 地球惑星科学関連学会 2009年合同学会予稿集, Y229-009
- 寺岡義治 (2001): 遠山川埋没林の検証, 伊那, 883号, p.28-33.
- 寺岡義治・松島信幸・村松武義治 (2006): 遠山川の埋没林, 一古代の地変を未来の警鐘に一, 南信濃自治振興センター・飯田市美術館, 32p.
- 土砂災害年報編集委員会 (1996): 土砂災害の実態, 1995 (平成7年), 砂防・地すべり技術センター, 64p.
- 豊島正幸 (1989): 過去2万年間の下刻過程にみられる 10^3 年オーダーの侵食段丘形成, 地形, 10巻4号, p.309-321.
- 永田秀尚・小嶋智 (2009): 紀伊半島東部宮川流域におけるせき止め湖をとまうランドスライド, 地球惑星科学関連学会2009年合同学会予稿集, Y229-008
- 長野県建設部砂防課 (2009): 青木雪卿が描いた善光寺地震絵図〜現在との比較, 長野県の地すべり, p.73-137.
- 長野県姫川砂防事務所 (1992): 姫川砂防事務所開設 50年記念誌, 180p.
- 中村浩之・土屋智・井上公夫・石川芳治 (2000): 地震砂防, 古今書院, 口絵16p., 本文190p.
- 日本地すべり学会 (2010): 特集: 近年の地すべりダム, 日本地すべり学会誌, 47巻6号, p.1-62.
- 日本列島の地質編集委員会編 (コンピューターグラフィックス日本列島の地質), CD-ROM版, 産業技術総合研究所地質調査研究センター監修, 丸善株式会社, 82p.
- 新潟県 (2000): 新潟県地質図2000年版 (1/20万)
- 新潟県土木部砂防課 (2005): 新潟県中越地震と土砂災害, 68p.
- 新潟大学・中越地震新潟大学調査団 (2005): 新潟県連続災害の検証と復興への視点, 一2004.7.13水害と中越地震の総合的検証一, 217p.
- 二次災害防止研究会 (1986): 二次災害の予知と対策, 全国防災協会, No.1, 178p.
- 二次災害防止研究会 (1987): 二次災害の予知と対策, 全国防災協会, No.2, 194p.
- 二次災害防止研究会 (1988): 二次災害の予知と対策, 全国防災協会, No.3, 432p.
- 二次災害防止研究会 (1990): 二次災害の予知と対策, 全国防災協会, No.4, 164p.
- 二次災害防止研究会 (1994): 二次災害の予知と対策, 一アドバイザー制度活用のために一, 二次災害防止研究会, No.5, 196p.
- 布原啓史・吉田武義・山田亮一・前田修吾・池田浩二・長橋良隆・山本明彦・工藤健 (2010): 平成20年岩手・宮城内陸地震の震源域周辺の地質と地質構造, 月刊地球, 369号, p.356-366.
- 野崎保・井上裕治 (2005): 天正地震(1586)による前山地すべりの発生機構, 日本地すべり学会誌, 42巻2号, p.13-18.
- ハスパートル・石井晴雄・丸山清輝・寺田秀樹・鈴木聡樹・中村章 (2011): 最近の逆断層地震により発生した地すべりの分布と規模の特徴, 日本地すべり学会誌, 48巻1号, p.23-38.
- 長谷川修一 (2009): 四国における地すべりダムの分布と誘因, 地球惑星科学関連学会2009年合同学会予稿集, Y229-004
- 林一成・若井明彦・田中頼博・安部真郎 (2011): 地形・地質解析と有限要素解析の連携による地震時の地すべり危険度評価手法, 日本地すべり学会誌, 48巻1号, p.1-11.
- 原山智・河合小百合 (2009): 上高地における過去2万6千年間の山岳環境変遷, 地球惑星科学関連学会2009年合同学会予稿集, Y229-006
- 原山智・河合小百合 (2010): 上高地学術ボーリングから判明した地形発達史と山岳の環境変遷, 沖津進・安田正二編著 (2010) 「亜高山・高山域の環境変遷, 一最新の成果と展望一」, 日本地理学会, p.22-37.
- Varns, D.J. (1958): Landslide types and Processes, in Landslide and Engineering Practice, Eckel, E.B. edited by Highway Research Board, Special Report, No.29, p.20-47.
- Varns, D.J. (1978): Slope movement types and Processes, in Landslides-Analysis and control edited by Schuster, R.L. and Krizek, R.L., Transp. Res Board, Special Report, No.176, p.11-33.
- 檜垣大助・山田知充・石渡幹夫・服部修 (2009): ネパールイムジャ湖・ドドコシにおける氷河湖決壊洪水対策の検討, 平成21年度砂防学会研究発表会概要集, p.212-213.
- 檜垣大助・井良沢道也・林信太郎・渡辺一史 (2010): 平成20年岩手・宮城内陸地震で発生した地すべり性斜面変動の地形・地質的発生素因と危険度指標, 平成22年度砂防地すべり技術研究成果報告会講演論文集, p.131-148.
- 兵庫県土木部砂防課 (1996): 昭和51年兵庫県粟粟郡一宮町災害一福知の地すべり一, 砂防学会誌, 49巻1号, 口絵, p.54-56.
- 藤田耕史 (2009): ヒマラヤにおける氷河湖の危険度評価, 地球惑星科学関連学会2009年合同学会予稿集, Y229-012
- 藤田崇・諏訪浩 (2006): 昭和二八年有田川水害, シリーズ日本の歴史災害, 6巻, 古今書院, 240p.
- 古谷尊彦 (1997): 地すべりと地形形成, 一姫川流域を例として一, 地すべり学会新潟支部シンポジウム, p.1-12.
- 碧海康温 (1915): 大正三年三月十五日秋田県仙北郡二発シタル地震ニ就キテ, 震災予防調査報告, 82号, p.31-36. 及び図・写真
- 北陸地方整備局中越地震復旧対策室・湯沢砂防事務所 (2004): 平成16年(2004年)新潟県中越地震 芋川河道閉塞における対応状況, 12p.
- 松崎健 (1986): 新潟県外波川河道埋塞と能生の地すべり, 二次災害の予知と対策, No.1, p.63-84. 松林正義 (1987): 明治44年(1911)稗田山崩壊による姫川の河道埋塞, 二次災害の予知と対策, No.2, p.15-35.
- 町田尚久・田村俊和 (2009): 荒川上・中流部の寛保2年(1742年)水害における天然ダム形成の可能性, 日本地球惑星科学連合2009年度連合大会, Z176-003
- 町田尚久 (2011): 荒川上流部における寛保2年洪水(1742年)の史料を用いた地形学的解釈, 平成23年度砂防学会研究発表会概要集, p.362-363.
- 松島信幸 (2000): 伊那谷における天正地震, 歴史地震, 16号, p.53-58.
- 松林正義 (1987): 明治44年(1911)稗田山崩壊による姫川の河道埋塞, 二次災害防止研究会: 二次災害の予知と対策, 全国防災研究会, p.15-35.
- 丸井英明・渡部直喜・川邊洋・権田豊 (2005): 中越地震による斜面災害と融雪の影響について, 新潟大学・中越地震新潟大学調査団, 新潟県連続災害の検証と復興への視点, p.148-155.
- 水山高久 (1994): 第1編 河道埋塞, 二次災害防止研究会: 二次災害の予知と対策, No.6, p.25-49.

- 宮崎県 (2005) : 平成17年砂防調査第1-A1号, 天然ダム決壊機構及び緊急・応急体制検討業務報告書, 財団法人砂防フロンティア整備推進機構
- 宮崎県土木部 (2006) : 宮崎県における災害文化の伝承, 宮崎土木事務所, 72p.
- 宮部直巳 (1937) : 稗田山附近における地辻, 地震, 9巻1号, p.6-15.
- 向井俊行 (1989) : 文芸作品にみる土砂災害と砂防(3), 田辺聖子著「浜辺先生町を行く」, 砂防と治水, 63号, p.93-96
- 村松武 (2006) : 濃尾震災, 一明治24年内陸最大の地震一, シリーズ日本の歴史災害, 3巻, 古今書院, 120p.
- 村松武・寺岡義春・後藤(桜井)晶子 (2009) : 西暦714年の遠江地震でできた天竜川支流遠山川の天然ダムとその侵食過程, 地球惑星科学関連学会2009年合同学会予稿集, Y229-P002
- 林野庁東北森林管理局 (2008) : 岩手・宮城内陸地震に係る山地災害対策検討会資料 (第1~8回)
- 林野庁東北森林管理局宮城北部森林管理署 (2009) : 三迫川地区(三迫川III)治山工事实施設計業務報告書, 土地地質株式会社
- 歴史地震研究会 (2008) : 地図にみる関東大震災, 一震災直後の調査地図の初公開一, 日本地図センター, 68p.
- 八木浩司・佐藤剛・山科真一・山崎孝成 (2008) : 2008年岩手県・宮城内陸地震により発生した地すべり・崩壊分布図, http://japan.landslide-soc.org/education/report/iwate_miyagi_EQ_080717
- Yagi, H., Sato, G., Higaki, D., Yamamoto, & M., Yamasaki, T. (2009) : Distribution and characteristics of landslides induced by the Iwate-Miyagi Nairiku Earthquake in 2008 in Tohoku District, Northeast Japan, Landslides vol.6, pp.335-344.
- 柳澤和明 (2011) : 貞観地震・津波からの陸奥国府多賀城の復興, NPOゲートシティ多賀城, p.1-16.
- 柳沢幸夫・小林巖雄・竹内圭史・立石雅昭・千原一也・加藤碩一 (1986) : 小千谷地域の地質, 地域地質研究報告 (5万分の1地質図幅), 新潟 (7) 第50号, 地質調査所, 177p.
- 柳原敦・中島勇喜・遠藤治郎・杉浦信男・松浦和樹・日暮雅博 (1994) : 93年6月に立谷沢川濁沢で発生した大規模地すべりについて, 日林東北支誌, 46号, p.207-208.
- 山岸正徳 (1977) : 清水山地辻状況調書
- 山崎直方 (1896) : 陸羽地震調査概報, 震災予防調査会報告, 11巻, p.50-74., 図3葉
- 山田知充 (2002) : 第7章 氷河による天然ダムの形成と決壊, 田畑茂清・水山高久・井上公夫 (2002) : 天然ダムと災害, 古今書院, p.129-142.
- 山邊康晴・丸井英明・吉松弘行・山本悟 (2010) : 新潟県中越地震によって東竹沢・寺野地区に発生した地すべりダム, 日本地すべり学会誌, 47巻6号, p.41-52.
- 山梨県砂防課 (1994) : 山梨県西八代郡六郷町地すべり及び河道埋塞災害, 二次災害の予知と対策, No.6, p.175-179.
- 横山俊治・村井政徳 (2009) : 地すべりダムの地形学的検出方法, 地球惑星科学関連学会2009年合同学会予稿集, Y229-003
- 米谷恒春・森脇寛・清水文健 (1983) : 1982年台風10号と直後の低気圧による三重県一志郡の土石流災害および奈良県西吉野村和田地すべり災害調査報告, 防災科学技術研究所, 主要災害調査, 22号, 71p.
- 米地文夫 (2006) : 磐梯山爆発, シリーズ日本の歴史災害, 4巻, 古今書院, 200p.

2章・参考・引用文献

- 青木滋 (1984) : 稗田山崩壊について, 地形, 5 巻 3 号, p.205-214.
- 青森県西北地域県民局・東信技術 (株) (2010) : 平成 21 年度追良瀬川河川総合開発流量観測委託報告書.
- 芦田和男 (1987) : 河道埋塞に関する事例研究, —1889年 (明治22年) 十津川水害について—, 二次災害の予知と対策, No.2, p.37-57.
- 安曇村誌編纂委員会編 (1997) : 安曇村誌, 第二巻, 歴史, 上, 安曇村, 724p.
- 安曇村誌編纂委員会編 (1998a) : 安曇村誌, 第三巻, 歴史, 下, 安曇村, 849p.
- 安曇村誌編纂委員会編 (1998b) : 安曇村誌, 第四巻, 民俗, 安曇村, 863p.
- 安部和時・真鍋征夫・岩井清志・宮下寛彦 (1997) : 長野県鬼無里村で発生した山地崩壊現地調査報告 (速報), 砂防学会誌, 50 巻 2 号, p.78-81.
- 荒川義則 (1980) : 仁和 3 年 (887 年) 信濃北部の地質に対する疑問, 気象庁地震観測技術報告, 1 号, p.11-14.
- 安樂城村 (1922) : 安樂城村誌, 44p.
- 荒牧重雄 (1968) : 浅間火山の地質 (地質図付), 地団研専報, 14 巻, 45p. (1993 年に地質調査所より『浅間火山地質図』として刊行されている)
- 荒牧重雄 (1981) : 浅間火山の活動史, 噴出物および Disaster Map と災害評価, 噴火災害の特性と Disaster Map の作製及びそれによる噴火災害の予測の研究, 文部省科学研究費特別研究 (A), p.25-36.
- 飯島慈裕・篠田雅人 (1998) : 八ヶ岳連峰稲子岳の凹地内における暖候期の冷氣形成, 地理学評論, 71 巻 A-8 号, p.559-572.
- 石田昌一・安田勇次・吉野睦・平松健・井上公夫・笠原亮一 (2006) : 紀伊半島における地震関連土砂災害の土砂移動現象について, 平成18年度砂防学会研究発表会概要集, p.230-231.
- 石橋克彦 (1999) : 文献史料からみた東海・南海巨大地震—14 世紀前半までのまとめ—, 地学雑誌, 108 号, p.399-423.
- 石橋克彦 (2000) : 887 年仁和地震が東海・南海地震であったこと確かからしさ, 地球惑星科学関連学会予稿集, S1-017.
- 市川隆之 (1992) : 更埴条里遺跡, 長野県埋文センター年報, 8 号, p.38-43
- 市川隆之・白居直之・町田勝則・西山克己・贅田明・市川桂子 (1997) : 市川条理遺跡, 第 1 分冊, 中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書, 15 号, 長野市内その 3, p.307-344
- 市川大門教育委員会 (2000) : 市川大門町一宮浅間宮帳, 市川大門町郷土資料集, 6号, 228p.
- 井上公夫 (1997) : 流域の地形変化と土砂災害, 1996年12月6日蒲原沢土石流調査報告書, (社)地盤工学会蒲原沢土石流調査団, p.2-11.
- 井上公夫 (1998) : 北陸地方における地震などに起因した大規模土砂移動の事例紹介, 北陸の建設技術, p.24-27.
- 井上公夫 (2003) : 地震と土砂災害 (地震に関連した土砂災害), 四国山地砂防ボランティア講習会—南海地震に備える—, 34p.
- 井上公夫 (2004) : 浅間山天明噴火と鎌原土石なだれ, 地理, 49巻5号, 表紙, 口絵カラー, p.1-4, 本文,p.85-97.
- 井上公夫 (2006a) : 建設技術者のための土砂災害の地形判読実例問題 中・上級編, 古今書院, 142p.
- 井上公夫 (2006b) : 第 1 章, 第 4 節 天然ダムの形成と決壊洪水, 中央防災会議・災害教訓の継承に関する専門調査会, 1847 善光寺地震報告書, p.61-66.
- 井上公夫 (2007) : 第 1 章 4 節 天然ダムの形成と決壊洪水, 中央防災会議・災害教訓の継承に関する専門調査会, 1847 善光寺地震報告書, 225p.
- 井上公夫 (2009a) : 噴火の土砂洪水災害, 一天明の浅間焼けと鎌原土石なだれ—, シリーズ繰り返す自然災害を知る・防ぐ, 第5巻, 古今書院, 220p.
- 井上公夫 (2009b) : 八ヶ岳大月川岩屑なだれ (887) によって形成され, 302 日後に決壊した天然ダム, 第 26 回歴史地震研究会発表会要旨集, p.41-42. 歴史地震, 25 号, p.134-135.
- 井上公夫 (2009c) : 富士山の大规模雪代災害—天保五年 (1834) —の流下経路, 砂防学会誌, 62 巻 2 号, p.45-50.
- 井上公夫 (2010a) : 長野県内で発生した天然ダムの形成と決壊事例の紹介—日本で最も大きな天然ダム(八ヶ岳・大月川岩屑なだれ, 887)—, 地盤工学会中部支部信州地盤環境委員会平成 21 年度第 2 回講演会
- 井上公夫 (2010b) : 887 年の八ヶ岳大月川岩屑なだれと天然ダム, 第 301 回資源セミナー講演資料, 一大規模山体崩壊と天然ダム決壊洪水の痕跡を探る—, 23p.
- 井上公夫 (2010c) : 日本最大の天然ダム (887 年) の形成と決壊洪水, —八ヶ岳大月川岩屑なだれによる天然ダムの形成と 303 日後の「仁和洪水」—, 測量, 60 巻 12 号 p.24-28.
- 井上公夫 (2010d) : 自然災害などを題材とした小説の紹介・集計, 砂防と治水, 198 号, p.102-104.
- Inoue K. (2010e) : Debris flows and flood-induced disasters caused by the eruption of Asama Volcano in 1783 and restration projects thereafter, Interpraevent 2010, International Symposium in Pacific Rim, Taipei, Taiwan, p.197-205.
- 井上公夫 (2011a) : 長野県中・北部で形成された巨大天然ダムの事例紹介, —八ヶ岳大月川岩屑なだれと姫川・岩戸山の大规模地すべり—, 歴史地震, 26 号, p.106-107.
- 井上公夫 (2011b) : 西日本の地震などによる大規模土砂災害, 九州応用地質学会平成 23 年度講習会「(九州における)大規模地震による津波災害と土砂災害」, 一大規模地震災害に対して, 応用地質学はどのような社会貢献ができるか—, 講習会資料集, p.4.1-22.
- 井上公夫 (2012a) : 紀伊半島における 1889 年の天然ダム災害, 砂防と治水, 206 号, p.56-61.
- 井上公夫 (2012b) : 形成原因別 (豪雨, 地震・火山噴火) にみた天然ダムの比較, 砂防と治水, 207 号, p.88-89.
- 井上・石川芳治・山田孝・矢島重美・山川克己 (1994) : 浅間山天明噴火時の鎌原火砕流から泥流に変化した土砂移動の実態, 応用地質, 35 巻 1 号, p.12-30.
- 井上公夫・川崎保・町田尚久 (2010) : 八ヶ岳大月川岩屑なだれ, —887 年の大規模山体崩壊と天然ダム決壊の痕跡を探る—, 地理, 55 巻 5 号, 口絵, p.1-4, 本文, p.106-116
- 井上公夫・蒲原潤一・本橋和志・渡部康弘 (2008) : 安倍川中流・蔵野地区の西側山腹崩壊で生じた河道閉塞と 1914 年の水害, 砂防学会誌, 61 巻 2 号, p.30-35.
- 井上公夫・坂口哲夫・町田尚久・平春 (2009) : 八ヶ岳大月川岩屑なだれ (887) によって形成・決壊した天然ダム, 平成 21 年度砂防学会研究発表会概要集, p.264-265.

- 井上公夫・桜井亘 (2009) : 宝永南海地震 (1707) で形成された仁淀川中流 (高知県越知町) の天然ダム, 砂防と治水, 187号, p.71-75
- 井上公夫・坂口哲夫・町田尚久・平春 (2009) : 八ヶ岳大月川岩屑なだれ (887) によって形成・決壊した天然ダム, 平成 21 年度砂防学会研究発表会概要集, p.264-265
- 井上公夫・坂口哲夫・西本晴男 (2010) : 日本最大の天然ダム (千曲川・八ヶ岳大月川岩屑なだれ) の事例調査, 一砂防フロンティアの自主研究成果の紹介一, 平成 22 年度砂防学会研究発表会概要集, p.272-273.
- 井上公夫・坂口哲夫・渡部文人・服部聡子・町田尚久 (2011) : 八ヶ岳・千曲川天然ダム決壊時 (888) に発生した大洪水の再現, 平成 23 年度砂防学会研究発表会概要集, p.72-73.
- 井上公夫・土志田正二 (2012) : 紀伊半島の 1889 年と 2011 年の土砂災害の比較, 砂防学会誌, 653 号,
- 井上公夫・向山栄 (2007) : 建設技術者のための地形図判読演習帳 初・中級編, 古今書院, 82p.
- Inoue K., Mori T. and Mizuyama T. (2012) : The formation and outburst flooding of the largest landslide dam on the Yatsugatake Volcano in Japan, 12th Congress Interpraevent 2012 Grenoble / France – Extended Abstracts and Poster
- 井上公夫・山本武美 (2012) : 宝永南海地震 (1707) で形成された仁淀川中流・舞ヶ鼻の天然ダムの石碑と説明看板, 砂防と治水, 砂防と治水, 205 号, p.113-115.
- 井上穎績 (1983) : 来馬村災害変遷図, 図葉 (A1 判) 1 葉
- 井口隆・八木浩司 (2011) : 空から見る日本の地すべり地形シリーズ-19, 発生後 100 年を迎えた稗田山の崩壊地形, 日本地すべり学会誌, 48 巻 4 号, 口絵, p.35-37.
- 今井長夫・菊池清人編集 (1986) : 『南牧村誌』, 第二編五章五節, 八ヶ岳崩れ南牧湖と松原湖でさる, p.532-544.
- 今村明恒 (1948) : 善光寺地震の教訓, 善光寺地震百年忌記念善光寺地震誌, p.11-30.
- 上野将司 (2009) : 姫川流域の地すべりダム, 地球惑星科学関連学会 2009 年合同学会予稿集, Y229-005
- 上野将司 (2010) : 姫川流域の斜面変動, 糸魚川ジオパークを横目に見て, 299 回資源セミナー講演資料, 10p.
- 宇佐美龍夫 (2003) : 新編日本被害地震総覧[増補改訂版], 東京大学出版会, 493p.
- 宇智吉野郡役所 (1891, 十津川村 1977-81 復刻) : 吉野郡水災誌, 巻之壹~巻之十一
- 海野實 (1991) : 安倍川と安倍街道, 安倍薬科歴史民俗研究会, 明文出版社, 189p.
- 江川良武 (2012) : 浅間山南麓における融雪型火山泥流と追分宿の発展, 千曲, 150号, p.1-12.
- 大石雅之・町田尚久・竹田朋矢 (2010) : 小規模堆積物からみた八ヶ岳火山における完新世の火山活動 (予報), 日本第四紀学会2010年大会要旨集, p.22-23.
- 大石雅之・町田尚久・竹田朋矢 (2011) : 八ヶ岳火山における歴史時代の小規模噴火堆積物の記載とその意義, 日本地球惑星科学連合2011年度連合大会, SVC048-P03
- 大浦瑞代 (2006) : 第 3 章 3 節 災害の記録と記憶, 中央防災会議災害教訓の継承に関する専門調査会『1783 天明浅間山噴火報告書』, p.154-180.
- 大浦瑞代 (2008) : 天明浅間山噴火災害絵図の読解による泥流の流下特性, 一中之条盆地における泥流範囲復原から一, 歴史地理学, 50巻2号, p.1-21.
- 大塚勉・木船清 (1999) : 安曇村地質図, 安曇村教育委員
- 会
- 大塚勉・根本淳 (2003) : 長野県安曇村梓川流域において一七五七年に生じた「トバタ」の崩壊と天然ダム, 信州大学環境科学論集, 25号, P.81-89.
- 多里英・公文富士夫・小林舞子・酒井潤一 (2000) : 長野県北西部, 青木湖の成因と周辺の最上部第四紀層, 第四紀研究, 39巻1号, p.1-13.
- 岡林直英・栃木省二・鈴木堯士・中村三郎・井上公夫 (1978) : 高知県中央部の地形, 地質条件と土砂災害との関係, ①②, 地すべり, 15巻2号, p.3-10, 3号, p.30-37.
- 奥田陽介・川上紳一・中村俊夫・小田寛貴・池田晃子 (2000) : 八ヶ岳崩壊で発生した大月川岩屑流堆積物中の埋れ木の14C年代, 名古屋大学加速器質量分析業績報告書, p.195-198.
- 奥西一夫 (1984) : 大規模崩壊のメカニズム, 地形, 5巻3号, p.179-193.
- 奥野充・中村俊夫・守屋以智雄 (1994) : 北八ヶ岳火山, 横岳溶岩ドームの完新世噴火活動, 日本地質学会101年学術大会講演要旨, p.221
- 大八木規夫 (2007) : 地すべり地形の判読法, 一空中写真をどう読み解くか一, 防災科学技術ライブラリー, Vol.1, 316p.
- 尾沢建造・杉本好文・高橋忠治 (1975) : 北アルプス小谷ものがたり, 信濃路, 243p.
- 小谷村梅雨前線豪雨災害記録編集委員会, 1997) : 小谷村梅雨前線豪雨災害の記録, 信濃毎日新聞社
- 小谷村誌編纂委員会 (1993a) : 小谷村誌, 歴史編, 小谷村誌刊行委員会, p.335-337.
- 小谷村誌編纂委員会 (1993b) : 小谷村誌, 自然編, 小谷村誌刊行委員会, p.121-122, p.194-197.
- 越知町 (1984) : 越智町史, 1244p.
- 甲斐黄金村湯之奥金山博物館 (1997) : 展示図録, 80p.
- 甲斐黄金村湯之奥金山博物館 (2011) : 湯之奥金山遺跡測量調査報告会【内山金山】、一戦国期金山の歴史を紐解く一, 43p.
- 科学技術庁防災科学技術研究所 (1998) : 地すべり地形分布図第一集「新庄・酒田」
- 科学技術庁防災科学技術研究所 (2000) : 地すべり地形分布図第三集「弘前・深浦」
- 蒲田文雄・小林芳正 (2006) : 十津川水害と北海道移住, シリーズ日本の歴史災害, 2巻, 古今書院, 194p.
- 上富田町史編さん委員会編 (1998) : 上富田町史, 第 1 巻, 1034p.
- 荻谷愛彦 (2011) : 氷河性とみなされていた日本アルプスの地すべり地形, 一鳳凰山東麓に分布する岩屑なだれの例一, 日本地理学会発表要旨集, p.214.
- 川崎保 (1997) : 長野県の遺跡における年代決定法について, 一相対年代と理化学的年代測定法などの対比と用い方一, 長野県考古学学会誌, 83号, p.1-3.
- 川崎保 (2000a) : 『仁和の洪水』は『八ヶ岳の大崩落』によっておきたのか, 一八ヶ岳岩屑なだれ年代特定の意義一, 佐久考古学通信, 78号, p.3-4.
- 川崎保 (2000b) : 「仁和の洪水砂層」と大月川岩屑なだれ, 長野県埋蔵文化財センター紀要, 8号, p.39-49.
- 川崎保 (2003) : 長野県の遺跡における地震痕跡および大規模災害痕跡, 古代学研究, 162号, p.43-48.
- 川崎保 (2010) : 仁和三年 (887) の八ヶ岳崩壊と仁和四年 (888) の千曲川大洪水, 佐久, 60号, p.2-12.
- 川崎保 (2012) : 888 年千曲川仁和の洪水, 佐久考古通信,

- 109号, p.2-6.
- 河内晋平 (1983a) : 八ヶ岳大月岩屑流, 地質学雑誌, 89巻3号, p.173-182.
- 河内晋平 (1983b) : 八ヶ岳大月岩屑流の¹⁴C年代, 地質学雑誌, 89巻10号, p.599-600.
- 河内晋平 (1985) : 八ヶ岳888年の大月川岩屑流, 地質と調査, 2号, p.36-42.
- 河内晋平 (1990a) : 八ヶ岳相木川岩屑なだれ堆積物と新潟焼山火山の噴火の特性, 河内晋平代表: 八ヶ岳・焼岳・焼山火山における巨大崩壊の特徴と発生頻度に関する調査研究, 平成元年度科学研究費補助金(重点領域1)研究成果報告書, p.2-8.
- 河内晋平 (1990b) : 千百年前の八ヶ岳崩壊と“信濃北部地震”の否定, UP(東京大学出版会), 8号, p.6-11.
- 河内晋平 (1992) : 1100年前の信濃北部地震(M=7.4)は実在しなかった, 40年近い論争に終止符, 日本科学者会議北海道支部ニュース, p.118.
- 河内晋平 (1994) : 887年の“信濃北部地震(M=7.4)”の否定と888年の八ヶ岳大月川岩屑なだれ, p.460-463.
- 河内晋平 (1994, 95) : 松原湖(群)をつくった888年の八ヶ岳大崩壊, 一八ヶ岳の地質学案内一, その1, 2, 信州大学教養学部紀要, 83号, p.171-183, 84号, p.171-183.
- 河内晋平 (2007) : 「登った 調べた 40余年」, 平成16年度収蔵資料展—河内晋平と八ヶ岳火山列一, 茅野市八ヶ岳総合博物館, 28p.
- 河内晋平・光谷拓実・川崎保(未公表・2001年3月12日作成) : 八ヶ岳大月川岩屑なだれ堆積物中の埋もれ木の年輪年代, 7p.及び図7葉, 表2葉.
- 上林好之 (2008) : 沖積平野における縄文以来の河道と堤防形成過程に関する研究, 平成19年度河川整備基金助成事業報告書
- 菊地万雄 (1980) : 日本の歴史災害, 一江戸時代後期の寺院過去帳による実証一, 古今書院, 301p.
- 菊地万雄 (1980) : 天明3年浅間山噴火, 日本の歴史災害, 第1章1節, 古今書院, p.32-94.
- 菊地万雄 (1986) : 日本の歴史災害, 一明治編一, 古今書院, 396p.
- 菊地万雄 (1986) : 明治22年和歌山県富田川洪水, 日本の歴史災害, 第2章, 古今書院, p.87-130.
- 菊池清人 (1984) : 浅間山の噴火と八ヶ岳の崩壊, 一東信災害史一, 千曲川文庫6, 201p.
- 菊池清人 (1985) : 仁和4年の八ヶ岳の大崩壊, 信濃, 37巻7号, p.16-23.
- 菊池清人 (1988) : 仁和四年八ヶ岳の水蒸気爆発, 千曲, 58号, p.31-42.
- 岸川たかあき・絵・浜野安則・文写真 (2004) : 雑炊橋, 安曇野の昔話⑦, 湯浅範人・細田明子編集, 22p.
- 北沢秋司 (1983) : 姫川中流域の地すべり及び崩壊について, 地すべり, 17巻3号, p.12-21.
- 北澤秋司 (1984) : 稗田山崩壊および浦川土石流の巡検記録, 地形, 5巻3号, p.248-255.
- 北原糸子 (2006) : 日本災害史, 吉川弘文館, 465p.
- 気象庁 (1991 作成, 1996 発行) : 日本活火山総覧, p.191-211.
- 気象庁 (2003) : 火山噴火予知連絡会による活火山の選定及び火山活動度による分類(ランク分け)について, 報道発表資料, 平成15年1月21日
- 沓澤衆蔵 (1922) : 案楽城村誌, 第六 天変地變, p.17-21.
- 11 明治十年地殻変動・明治二十七年洪水, p.72-74.
- 群馬県埋蔵文化財調査団 (1995) : 遺跡は今, 長野原一本松遺跡, 4p.
- 群馬県埋蔵文化財調査団 (1996a) : 遺跡は今, 2号, 長野原一本松遺跡「人々の集まる村」, 4p.
- 群馬県埋蔵文化財調査団 (1996b) : 遺跡は今, 3号, 横壁中村遺跡「ムラのまつりの場」, 4p.
- 群馬県埋蔵文化財調査団 (1996c) : 遺跡は今, 4号, 出土文化財巡回展示会特集「次々と見つかる縄文人の祈りの場」, 8p.
- 群馬県埋蔵文化財調査団 (1997a) : 遺跡は今, 5号, 天明3年8月5日の泥流に埋まった畑, 8p.
- 群馬県埋蔵文化財調査団 (1998) : 遺跡は今, 6号, 横壁中村遺跡のウッドサークルと黒燿石, 8p.
- 群馬県埋蔵文化財調査団 (1999) : 遺跡は今, 7号, 横壁中村遺跡で見つかった大型敷石住居跡, 4p.
- 群馬県埋蔵文化財調査団 (2000a) : 遺跡は今, 8号, 横壁中村遺跡で見つかった中世の館, 4p.
- 群馬県埋蔵文化財調査団 (2000b) : 遺跡は今, 9号, 徐々に遡る長野原の歴史, 4p.
- 群馬県埋蔵文化財調査団 (2000c) : 遺跡は今, 10号, 発掘された天明三年畑遺跡の特集, 8p.
- 群馬県埋蔵文化財調査団 (2002) : 遺跡は今, 11号, 稲作農耕がはじまった頃の西吾妻, 8p.
- 群馬県埋蔵文化財調査団 (2003) : 遺跡は今, 12号, 上郷岡原遺跡の調査, 8p.
- 群馬県埋蔵文化財調査団 (2004) : 遺跡は今, 13号, 特集「長野原の縄文から弥生へ」, 8p.
- 群馬県埋蔵文化財調査団 (2006) : 遺跡は今, 14号, 8p.
- 群馬県埋蔵文化財調査団 (2007) : 遺跡は今, 15号, 特集「平成18年度の成果」8p.
- 群馬県立歴史博物館 (1995) : 第52回企画展図録, 「天明の浅間焼け」, 91p.
- 経済安定本部資源調査会事務局 (1949) : 日本気象災害年報, 一1900年より1947年まで一, 中央気象台編纂, 資源調査会資料17号
- 建設省静岡河川工事事務所 (1988) : 安倍川砂防史, 一安倍川砂防50周年記念一, 400p.
- 建設省静岡河川工事事務所 (1992) : 直轄河川改修60周年記念 安倍川治水史, 357p.
- 建設省中部地方整備局静岡河川工事事務所 (1988) : 安倍川砂防史, 400p.
- 建設省土木研究所新潟試験所 (1992) : 大所川巨礫調査報告書, 土木研究所資料, 3107号, 62p.
- 建設省松本砂防工事事務所 (1995) : 浦川の災害の歴史を語り継ぐために, 83p.
- 建設省松本砂防工事事務所 (1999) : 葛葉山腹工検討業務報告書, その1, その2, 日本工営株式会社
- 小疇尚・石井正樹 (1996) : 真那板山の崩壊と姫川の堰止め, 日本地理学会予稿集, 49号, p.192-193.
- 小疇尚・石井正樹 (1998) : 長野県北部真那板山の崩壊と姫川の堰止め, 駿台史学, 105号, p.1-18.
- 小出博 (1973) : 第3節 群発急性地すべり, 日本の国土, 下, 東京大学出版会, p.434-454.
- 高知県立図書館 (2005) : 土佐国資料集成 土佐国群書類従, 第七巻, 卷七十四 災異部, 谷陵記(奥宮正明記), p.2-11.
- 小海町誌編纂委員会 (1963) : 小海町誌1, 川東編, 358p.
- 国土交通省近畿地方整備局 (2005) : 紀伊半島の地震等に起因した

- 土砂災害史調査報告書, 砂防・地すべり技術センター
 国土交通省四国山地砂防事務所 (2004) : 四国山地の土砂災害, 68p.
- 国土交通省北陸地方整備局松本砂防事務所 (2003) : 松本砂防管内とその周辺の土砂災害, 49p.
- 国土交通省北陸地方整備局松本砂防事務所 (2011) : 崩れ～稗田山崩壊から100年～, DVD, 製作SBC信越放送
- 国土交通省利根川水系砂防事務所 (2004) : 天明三年浅間焼け, 制作／(財)砂防・地すべり技術センター, 82p.
- 国土交通省中部地方整備局富士砂防事務所 (2007) : 富士山周辺の地震と土砂災害, 日本工営株式会社, 72p.
- 小菅尉多・井上公夫 (2007) : 鎌原土石なだれと天明泥流の発生機構に関する問題提起, 平成 19 年度砂防学会研究発表会概要集, p.486-487.
- 笹本正治 (2007) : 土石流災害と伝承, 一身近な防災のために一, 日本地すべり学会中部支部講演集, p.1-14.
- 澤口宏 (1983) : 天明三年浅間山の大噴火と災害, 地理, 28 巻 4 号, p.45-52.
- 澤口宏 (1986) : 天明三年浅間山火山爆発による泥流堆積物, 中村遺跡, 関越自動車道(新潟線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書(KC-Ⅲ), 渋川市教育委員会, p.510-518.
- 寒川典昭・山下伊千造・南志郎(1992) : 千曲川下流の歴史洪水の復元と考察, 土木史研究, 12 号, p.251-262.
- 四国山地砂防ボランティア協会 (2008) : 平成 20 年度土砂災害防止講習会配布資料
- 静岡河川工事事務所 (1979) : 高水報告書, VIII. 昭和 54 年 10 月 19 日高水(台風 20 号による大雨)
- 静岡県土木部砂防課・全国治水砂防協会静岡県支部 (1996) : 静岡県砂防誌, 431p.
- 信濃川上流直轄砂防百年史編集委員会 (1979) : 松本砂防の歩み, 一信濃川上流直轄砂防百年史一, 893p.
- 信濃教育会北安曇部会 (1930-37) : 北安曇郡郷土誌稿, 第 1 集～3 集.
- 信濃毎日新聞 (2010) : 千曲川上流平安期の天然ダム, 一国内で最大規模一, 5 月 12 日朝刊 1 面
- 信濃毎日新聞出版局編(2002) : 寛保 2 年の千曲川大洪水, 戊の満水」を歩く, 国土交通省千曲川工事事務所協力, 206p.
- 嶋崎宏樹・檜垣大助・荒川隆嗣(2008) : 農地地すべり防災への住民情報活用の検討, 第 47 回(社)日本地すべり学会研究発表会講演集, p.271-274.
- 島田恵子(1988) : 八ヶ岳崩壊の仁和四年説に関する考察, 一考古学的調査を中心として一, 千曲, 56 号, p.56-74.
- 島野安雄・永井茂 (1993) : 日本水紀行, (4) 甲信越地域の名水, 地質ニュース, 466 号, p.42-52.
- 清水長正 (2009) : 日本の風穴, 一その利用と先駆的研究をめぐって, 地理, 54 巻 7 号, 徳集夏を涼しく一天然氷と風穴, 口絵 p.1-4, 本文 p.32-39, 2009 年全国風穴一覧表, p.76-81.
- 清水文健・井口隆・大八木規夫 (2000) : 5 万分の 1 地すべり地形分布図「白馬岳」, 防災科学技術研究所資料, 第 309 号, 地すべり地形分布図, 11 集, 「富山・高山」
- 舎川徹・小澤貢二・杉原豊孝・千田正雄 (1984) : プレロックボルト工法による土石流堆積中の導水路トンネル改良工事, 電力土木, 193 号, p.23-33.
- 白石睦弥・檜垣大助・古澤和之 (2011) : 1793 寛政西津軽地震に関する一考察(その 1), 歴史地震, 26 号, p.96.
- 新宮市史編さん委員会 (1972) : 新宮市史, 1076p.
- 鈴木堯士 (2003) : 寺田寅彦の地球観, 一忘れてはならない科学者, 高知新聞社, 299p.
- 鈴木比奈子・荻谷愛彦・井上公夫 (2009) : 正徳四年(1714) 信州小谷地震における岩戸山崩落とそれによる塞き止め湖の浸水範囲, 第 48 回日本地すべり学会予稿集, p.63-64.
- 関敏明 (2006) : 天明泥流はどう流下したか, ぐんま史料研究, 群馬県立文書館, p.27-54.
- 善光寺地震災害研究グループ (1994) : 善光寺地震と山崩れ, 長野県地質ボーリング協会, 130p.
- 鷹野一弥 (1965) : 長野県南佐久郡松原湖湖沼群の生成年代, 信濃, 17 号, p.726-731.
- 竹下敬司・鈴木隆介・平野昌繁・諏訪浩・石井考行・奥西一夫 (1984) : 巨大崩壊と河床変動に関する総合討論の記録, 地形, 5 巻 3 号, p.231-247.
- 竹本弘幸 (2011) : 八ツ場ダム建設のため蛇行地形に偽装された上湯原の巨大地すべり, 日本地理学会発表要旨集, p.242.
- 田畑茂清・井上公夫・早川智也・佐野史織 (2001) : 降雨により群発した天然ダムの形成と決壊に関する事例研究, 一十津川災害(1889)と有田川災害(1953)一, 砂防学会誌, 53 巻 6 号, p.66-76.
- 田畑茂清・水山高久・井上公夫 (2002) : 天然ダムと災害, 古今書院, 口絵 8P., 本文 205p.
- 地質調査所 (1995) : 糸魚川ー静岡構造線活断層ストリップマップ, 1/10 万地質図
- 地質調査総合センター (2007) : 伊野地域の地質, 地域地質研究報告(5 万分の 1 地質図幅), 140p.
- 地すべり学会実行委員会 (1991) : 西沢(十谷地すべり), 95p.
- 茅野市八ヶ岳総合博物館 (2005) : 平成 16 年度収蔵資料展「河内晋平と八ヶ岳火山列」, 「登った 調べた 40 余年」, 28p.
- 中央防災会議災害教訓の継承に関する専門調査会 (2006a) : 1783 天明浅間山噴火, 報告書, 193p.
- 中央防災会議災害教訓の継承に関する専門調査会 (2006b) : 1847 善光寺地震, 報告書, 225p.
- 塚本良則 (1984) : シンポジウム「巨大崩壊と河床変動」への序, 地形, 5 巻 3 号, p.151-154.
- 津久井雅志 (2011) : 浅間山天明噴火: 遠隔地の史料から明らかになった降灰分布と活動推移, 火山, 56 巻 2・3 合併号, p.65-87.
- 都司嘉宣 (1993) : 糸静線付近に起きた正徳 4 年 (1714) 信州小谷地震と安政 5 年 (1858) 大町地震の詳細震度分布, 日本地震学会講演予稿集 1993 年度 (2) P035.
- 都司嘉宣 (2008.8.25) : 高知地震新聞, 続歴史地震の話 No.19, 崩落による新湖出現, 高知新聞記事
- 都司嘉宣 (2010.10.15,11.19) : 高知地震新聞, 続歴史地震の話, No.46,47, 越知町の河川閉塞ダム, 高知新聞記事
- 土本基 (1938) : 大糸線稗田山と風吹岳の山崩れ, 鉄道省土質調査報告, 5 輯, p.172-175.
- 綱木亮介・南哲行・藤本済 (1997) : 長野県鬼無里村裾花川支流濁川地すべり及び天然ダム現地調査報告(速報), 砂防学会誌, 50 巻 2 号, p.74-77.
- 寺内隆夫 (2002a) : 九世紀後半の洪水災害と復興への道のり, 一屋代遺跡群・更埴条里遺跡の発掘調査から一, 信濃, 54 巻 8 号, p.47-68.
- 寺内隆夫 (2002b) : 更埴条里遺跡・屋代遺跡群に見る災害と開発, 日本歴史における災害と開発 I, 国立歴史民俗博物館研究報告, 96 号, p.23-49.

- 土木学会水理委員会 (1985) : 水理公式集, 第 1 編 基礎水理編, 2.3 等流, 土木学会, p.12-16.
- 中野俊・竹内誠・吉川俊之・長森英明・荻谷愛彦・奥村晃史・田口雄作 (2002) : 白馬岳地域の地質, 1/5 万地質図, 産総研地質調査総合センター, 117p.
- 長野県教育委員会 (1967) : 更埴市条里遺構調査報告書, 205p.
- 長野県南佐久郡南牧村誌編さん委員会 (1986) : 南牧村誌, 第六章, 社寺と信仰, 海尻諏訪神社, 海の口湊神社, p.1345-1352.
- 中村庄八 (1998) : 吾妻川から失われつつある浅間石の記録保存, 一中之条高校文化祭発表のまとめを兼ねて一, 群馬県立中之条高等学校紀要, 16 号, p.15-25
- 中村浩之・土屋智・井上公夫・石川芳治 (2000) : 地震砂防, 古今書院, 口絵 16p., 本文 190p.
- 奈良国立文化財研究所編 (1990) : 年輪に歴史を読む, 一日本における古年輪学の成立一, 同朋舎, 195p.
- 西山克己 (1997) : 遺跡に見られる自然災害, 篠ノ井遺跡群成果と課題編, 長野県埋蔵文化財センター, p.297-300.
- 「白馬の歩み」編纂委員会 (2000) : 白馬の歩み, 第二巻, 社会環境編, 上, 白馬村, p.204-205, p.329
- 萩原進編集・校訂 (1985-96) : 浅間山天明噴火史料集成, 群馬県文化事業振興会, I 日記編, 372p., II 記録編(一), 348p., III 記録編(二), 381p., IV 記録編(三), 343p., V 雑編, 354p.
- 長谷川成一 (2004) : 弘前藩, 吉川弘文館, 281p.
- 馬場平遺跡発掘調査団 (1995) : 馬場平遺跡, 小海町文化財調査報告書第 7 集, 小海町教育委員会, 26p.
- 早川由紀夫 (1995) : 浅間火山の地質見学案内, 地学雑誌, 10 巻 4 号, 表紙, 口絵写真, p.1-3, 本文, p.561-571.
- 早川由紀夫 (2007) : 浅間山火山北麓の 2 万 5000 分の 1 地質図, A2 判, 本の六四館
- 早川由紀夫 (2010a) : 平安時代に起こった八ヶ岳崩壊と千曲川洪水, 地球惑星科学関連学会 2010 年合同学会予稿集, SSS017-03
- 早川由紀夫 (2010b) : 信濃北部地震と平安砂層, 第 27 回歴史地震研究会要旨集, p. 40.
- 早川由紀夫 (2010c) : 浅間山火山北麓の 5 万分の 1 地質図, A2 判, 本の六四館
- 早川由紀夫 (2011) : 平安時代に起こった八ヶ岳崩壊と千曲川洪水, 歴史地震, 26 号, p.19-23.
- 早川由紀夫・中島秀子 (1998) : 史料に書かれた浅間山の噴火と災害, 火山, 43 巻 4 号, p.213-221.
- 稗田山崩れ 100 年事業実行委員会 (2011) : 稗田山崩れ 100 年シンポジウム, 40p.
- 檜垣大助・嶋崎宏樹・井上公夫・早田勉 (2009) : 山形県真室川町鮭川沿いの地すべり発生年代とその意義, 第 48 回(社)日本地すべり学会研究発表会講演集, p.17.
- 檜垣大助・白石睦弥・古澤和之 (2011a) : 1793 寛政西津軽地震に関する一考察(その 2), 歴史地震, 26 号, p.111.
- 檜垣大助・古澤和之・白石睦弥・井上公夫 (2011b) : 寛政西津軽地震による白神山地追良瀬川での天然ダム形成, 第 50 回(社)日本地すべり学会研究発表会講演集, p.27-28.
- 平野昌繁・諏訪浩・石井孝行・藤田崇・奥田節夫 (1987) : 吉野郡水災誌小字地名にもとづく明治 22 年 (1889) 十津川災害崩壊地の比定 (その 1: 西十津川), 京都大学防災研究所年報, 30 号 B-1, p.391-407.
- 平林照雄・宮沢洋介・太田勝一・吉原恒夫・肥田博行 (1985) : 長野県姫川中流域の地すべり地形について, 地すべり, 22 巻, p.1-10.
- 藤田至則・青木滋・佐藤修・高浜信行・鈴木幸治・池田伸俊 (1986) : 稗田山大崩壊の崩積土と崩壊の要因, 地質学論集, 28 号, p.147-159.
- 古谷尊彦 (1997) : 地すべりと地形形成, 一姫川流域の地形を例として一, 地すべり学会新潟支部シンポジウム, p.1-11.
- 古谷尊彦・町田洋・水野裕 (1987) : 津軽十二湖を形成した大崩壊について. 昭和 61 年度文部科学省自然災害特別研究(1)「崩災の規模, 様式, 発生頻度とそれに関わる山体地下水の動態」, p.183-188.
- 文化財研究所・奈良文化財研究所埋蔵文化財センター (2007) : 年輪年代と自然災害, 埋蔵文化財ニュース, 128 号, 24p.
- 防災科学技術研究所 (1998) : 地すべり地形分布図, 第 1 集「新庄・酒田」, 防災科学技術研究所研究資料, 69 号
- 細野繁勝 (1923, 2011 復刻) : 招魂碑の前に立ちて, PSP 出版, 170p.
- 堀内成郎・赤沼準一・森俊勇・井上公夫・吉川知弘・黒木健二 (2008) : 明治時代に発生した大柳川における天然ダムの形成と災害対策, 平成 20 年度砂防学会研究発表会概要集, p.230-231.
- 毎日新聞高知支局 (2002) : 歴史探訪南海地震の碑を訪ねて, 160p.
- 町田洋 (1959) : 安倍川上流部の堆積段丘, 一荒廃山地にみられる急激な地形の変化の一例一, 地理学評論, 32 巻, p.520-531.
- 町田洋 (1962) : 荒廃河川における侵蝕過程, 一常願寺川の場合一, 地理学評論, 35 巻, p.157-174.
- 町田洋 (1964) : 姫川流域の一溪流の荒廃とその下流に与える影響, 地理学評論, 37 巻, p.477-487.
- Machida, H. (1966): Rapid erosional development of mountain slopes and valleys caused by large landslide in Japan. Geogr. Rev. Tokyo Metropol. Univ., vol.1, p.55-78.
- 町田洋 (1967) : 荒廃山地における崩壊の規模と反復性についての一考察, 一姫川・浦川における過去約 50 年間の浸食史と 1964~65 年の崩壊・土石流一, 水利科学, 11 巻 2 号, p.30-53.
- 町田洋 (1984) : 巨大崩壊, 岩屑流と河床変動, 地形, 5 巻 3 号, p.155-178.
- 町田洋 (2010) : 北アルプスとその周辺の地史及びそれらの第四紀学的意味, 沖津進・安田正二編著 (2010)「亜高山・高山域の環境変遷, 一最新の成果と展望一」, 日本地理学会, p.3-11.
- 町田尚久・井上公夫・島田薫・田村俊和 (2009) : 千曲川上流の段丘地形にみられる 888 年八ヶ岳大月川岩屑なだれの影響, 地形学連合 2009 年秋季大会ポスター発表, 地形, 31 巻 1 号, p.71.
- 町田尚久・田村俊和・渡辺笑子・井上公夫・川崎保 (2010) : 大月川岩屑なだれが形成した天然ダムの決壊と大洪水: 堆積物の分析による考察, 平成 22 年度砂防学会研究発表会概要集, p.576-577.
- 町田尚久・田村俊和 (2010) : 八ヶ岳東麓部大月川付近の地形分類と大月川岩屑なだれ堆積地形の特徴, 日本地形学連合 2010 年秋季大会, P15
- 松多信尚・池田安隆・今泉俊文・佐藤比呂志 (2001) : 糸魚川・静岡構造線活動断層系北部神城断層の浅部構造と

- 平均地すべり速度，活断層研究，20号，p.50-70
- 松林正義（1987）：明治44年（1911）稗田山崩壊による姫川の河道埋塞，「二次災害の予知と対策 No.2」，全国防災研究会・二次災害防止研究会，p.15-35.
- 松本市安曇資料館編（2006）：梓川大満水記（松本市島内小宮・高山元衛文書），「トバタの山崩れと大水，江戸時代の天然ダムによる災害」，p.54-58p.
- 松本宗順（1949）：来馬変遷38年史，昭和23年1月起稿，35p. 建設省松本砂防工事事務所（1995）：浦川の災害の歴史を語り継ぐために，p.25-72.
- 真室川町史編集委員会（1969）：真室川町史，第一章 真室川の自然環境，p1-13.，第7章 七 災害，p.883-889.
- 丸山岩三（1990）：寛保2年の千曲川洪水に関する研究，I～IV，水利科学，34巻1号（192），p.50-152，2号（193），p.92-132，3号（194），p.39-76，4号（195），p.52-96.
- 水山高久（1984）：山地河川の河床変動とその土砂水文学的取り扱い，地形，5巻3号，p.179-203.
- 水山高久（1998）：姫川の大規模土砂流出と土砂管理，河川，628号，p.8-13
- 水山高久・原義文・福本晃久（1987）：溪岸侵食，溪岸崩壊実態調査報告書，土木研究所資料，第2526号
- 光谷拓実（1990）：年輪に歴史を読む，一日本における古代年輪学の成立一，同朋舎，195p.
- 光谷拓実（1995）：年輪から古代を読む，p.1-14.
- 光谷拓実（2000）：古年輪研究部門一自然災害史に関連した事例，長野県八ヶ岳崩落は887年と確定，考古学ニュース，奈文研COE研究拠点，1号，p.12-13.
- 光谷拓実（2001）：自然災害と年輪年代法，特集年輪年代法と文化財，日本の美術，至文堂，421号，p.86-97.
- 南佐久郡誌編集委員会（2002）：南佐久郡誌近世編，南佐久郡誌刊行会，1238p.
- 南牧村史編纂委員会（1986）：南牧村史，1429p.
- 宮崎県土木部（2006）：宮崎県における災害文化の伝承，宮崎土木事務所，72p.
- 明治大洪水誌編集委員会（1989）：紀州田辺明治大洪水，一100周年記念誌一，207p.
- 目代邦康（2006）：トバタの災害の地形・地質学的背景，松本市安曇資料館「トバタの山崩れと大水，江戸時代の天然ダムによる災害」，p.5-16.
- 目代邦康（2007）：梓川上流トバタの山崩れの地質と地形，日本地球惑星科学連合1007年大会，Y162-0001.
- 望月荒吉（1914）：大正三年安倍川大洪水，安倍川沿革誌，23p.
- 望月巧一（1971）：小土山地すべりについて，地すべり，地すべり学会誌，8巻2号，p.44-82.
- 望月優・吉川知弘・熊澤至朗・森俊勇・井上公夫・黒木健二（2009）：明治時代に発生した山梨県における大規模土砂災害と災害対策，平成21年度砂防学会研究発表会概要集，p.310-311.
- 森秀太郎（1984）：懐旧録 十津川移民，新宿書房，296p.
- 森俊勇・井上公夫・水山高久・植野利康（2007）：梓川上流・トバタ崩れ（1757）に伴う天然ダムの形成と決壊対策，砂防学会誌，60巻3号，p.44-49.
- Reimer,P.J. et.al.(2004)：IntCal04 Terrestrial radiocarbon Age Calibration 10-26 cal kyr. BP., Radiocarbon, 46, p.1029-1058.
- 竜神村誌編さん委員会（1985）：竜神村誌，上巻，1115p.
- 八木浩司・檜垣大助・日本知すべり学会平成14年度第三系分布域の地すべり危険個所調査手法に関する検討委員会(2009)：空中写真判読とAHP法を用いた地すべり地形再活動危険度評価手法の開発と阿賀野川中流域への適用，日本地すべり学会誌，45巻4号，p.8-16.
- 山内政三（1988）：静岡市の百年，大正，静岡市百周年記念出版会，310p.
- 山浦直人（2010）：馬車交通による近代道路改修事業成立に関する研究，一明治期における長野県の道路技術と技術者一，日本大学博士（工学）論文，本文224p.，資料92p.
- 山形県最上地方事務所（1991）：平成3年大谷地地区地すべり対策調査業務委託報告書，(株)三祐コンサルタント
- 山形新聞記事（1994年7月2日）：ウヒヤ「神代杉」がでた，樹齢は800年
- 山形新聞記事（1994年8月2日）：1100年前の大地震，これぞ動かぬ証拠
- 山崎哲人(1989)：平賀成頼（源心・玄信）による佐久郡支配について，一村上氏との関係を中心に一，信濃，41巻7号，p.1-23.
- 山崎哲人(1993)：絵図が明かす平賀玄信の佐久支配，郷土出版社，334p.
- 山下昇・小坂共栄・矢野賢治（1985）：長野県青木湖北岸の佐野坂山の崩壊堆積物，信州大学理学部紀要，20巻5号，p.199-210.
- 山田啓一・田辺淳（1985）：千曲川における寛保2年（1742）8月大洪水の考察，第5回日本土木史研究発表会論文集，p.121-128.
- 山田孝・石川芳治・矢島重美・井上公夫・山川克己（1993a）：天明の浅間山噴火に伴う北麓斜面での土砂移動現象の発生・流下・堆積実態に関する研究，新砂防，45巻6号，p.3-12.
- 山田孝・石川芳治・矢島重美・井上公夫・山川克己（1993b）：天明の浅間山噴火に伴う吾妻川・利根川沿川での泥流の流下・堆積実態に関する研究，新砂防，46巻1号，p.20-27.
- Yamada M., Matsushi Y., Chigira M. and Meri J. (2012): Seismic recordings of landslide caused by Typhoon Talas (2011), Japan. Geophysical Research Letters, Vol. 39, L13301
- 横山又次郎（1912）：長野県下南小谷村山崩視察報告，地学雑誌，24巻，p.608-620.
- 和歌山県（1963）：和歌山災害史，581p.
- 和歌山県伊都郡花園村（1982）：水害記録誌 よみがえった郷土，84p.
- 涌池史跡公園記録誌編集委員会（2011）：善光寺地震と虚空蔵山の崩壊，一弘化四年そのとき涌池になにが起きた一，涌池区，189p.
- 渡辺正幸（1984）：浦川流域における1911年の巨大崩壊と現在の砂防計画，地形，5巻3号，p.215-230.

3章・引用・参考文献

- 石川芳治・井良沢道也・小泉豊 (1991) : 天然ダムの決壊による洪水流下の予測に関する研究報告書, 土木研究所資料, 第 3013 号.
- 石川芳治・井良沢道也・匡尚富 (1992) : 天然ダムの決壊による洪水流下の予測と対策, 砂防学会誌, 45 巻 1 号, p.14-21.
- 井上公夫・森俊勇・伊藤達平・我部山佳久 (2005) : 1892 年に四国東部で発生した高磯山と保勢の天然ダムの決壊と災害, 砂防学会誌, 58 巻 4 号, p.3-12.
- 江頭進治・宮本邦明・伊藤隆郭 (1997) : 掃流砂量に関する力学的解釈, 水工学論文集, 41 巻, p.789-794.
- 小田晃・水山高久・宮本邦明 (2009) : 天然ダム決壊時の流量に関する一考察, 平成 21 年度砂防学会研究発表会概要集, p.40-41.
- J.Costa (1985) : Floods From Dam Failures, U.S. Geological Survey Open-File Report, 85-560, 54pp.
- 砂防フロンティア整備推進機構 (SFF, 2008) : 迫川上流に形成された天然ダムの決壊シミュレーション(試算), 自主研究報告書
- 砂防フロンティア整備推進機構 (SFF, 2009a) : 天然ダム決壊時のピーク流量推定に関する検討, 自主研究報告書
- 砂防フロンティア整備推進機構 (SFF, 2009b) : 湯浜地区天然ダム決壊による洪水流量の予測, 自主研究報告書
- 里深好文・吉野弘祐・小川紀一朗・森俊勇・水山高久・高濱淳一郎 (2007a) : 高磯山天然ダム決壊時に発生した洪水の再現, 砂防学会誌, 59 巻 6 号, p.32-37.
- 里深好文・吉野弘祐・水山高久・小川紀一朗・内川龍男・森俊勇 (2007b) : 天然ダムの決壊に伴う洪水流出の予測手法に関する研究, 水工学論文集, 51 巻, p.901-906.
- 里深好文・吉野弘祐・小川紀一朗・水山高久 (2007c) : 天然ダムの決壊時のピーク流量推定に関する一考察, 砂防学会誌, 59 巻 6 号, p.55-59.
- 大規模な河道閉塞 (天然ダム) の危機管理に関する検討委員会 (2009) : 大規模な河道閉塞 (天然ダム) の危機管理のありかたについて (提言), 15p.
- 高橋保 (1977) : 土石流の発生と流動に関する研究, 京大防災研年報, 20 号 B-2, p.405-435.
- 高橋保 (1989) : 昭和 40 年奥越豪雨災害—真名川の河道閉塞—, 二次災害の予知と対策, No.3, 全国防災協会, p.7-23.
- 高橋保・匡尚富 (1988) : 天然ダムの決壊による土石流の規模に関する研究, 京都大学防災研究所年報, 31 号 B-2, p.601-615.
- 高橋保・中川一 (1993) : 天然ダムの越流決壊によって形成される洪水・土石流のハイドログラフ, 水工学論文集, 41 巻, p.699-704.
- 高濱淳一郎・藤田裕一郎・近藤康弘 (2000) : 土石流から掃流状集合流動へ遷移する流れの解析法に関する研究, 水工学論文集, 44 巻, p.683-686.
- 高濱淳一郎・藤田裕一郎・近藤康弘・蜂谷圭 (2002) : 土石流の堆積侵食過程に関する実験と二層流モデルによる解析, 水工学論文集, 46 巻, p.677-682.
- 高濱淳一郎・藤田裕一郎・吉野弘祐 (2004) : 流速と濃度の鉛直分布を考慮した土石流の二層流解析に関する研究, 水工学論文集, 48 巻, p.677-682.
- 田畑茂清・水山高久・井上公夫・池島剛 (2001) : 天然ダム決壊による洪水のピーク流量の簡易予測に関する研究, 砂防学会誌, 54 巻 4 号, p.73-76.
- 寺戸恒夫 (1970) : 徳島県高磯山崩壊と貯水池防災, 地理科学, 14 号, p.22-28.
- 徳島県那賀郡驚敷町史編纂委員会 (1981) : 驚敷町史, 明治二十五年辰の水, p.673-677.
- 千葉幹 (2011) : 「唐家山の天然ダム対策から得られた反省点」についての紹介, 砂防学会誌, 64 巻 2 号, p.60.
- 千葉幹・内川龍男・水山高久 (2006) : 台風 14 号により宮崎県耳川で発生した天然ダムとそれに関する情報伝達について, 平成 18 年度砂防学会研究発表会概要集, p.198-199.
- 千葉幹・森俊勇・内川龍男・水山高久・里深好文 (2007) : 平成 18 年台風 14 号により宮崎県耳川で発生した天然ダムの決壊過程と天然ダムに対する警戒避難のあり方に関する提案, 砂防学会誌, 60 巻 1 号, p.43-47.
- 水野秀明・小山内信智 (2009) : 河道閉塞 (天然ダム) の形成による土砂災害リスクの低減対策に関する研究, 砂防学会誌, 62 巻 6 号, p.24-29.
- 宮崎県 (2005) : 平成 17 年砂防調査第 1-A1 号 天然ダム決壊機構及び緊急・応急体制検討業務報告書, 財団法人砂防フロンティア整備推進機構
- 森俊勇 (2007) : 天然ダム決壊時の洪水流量の予測と対応に関する研究, 京大大学学位論文 (論農博)
- 森俊勇 (2012) : 天然ダムの越流侵食により発生する洪水, 砂防と治水, 208 号,
- 森俊勇・坂口哲夫・澤陽之・水山高久・里深好文・白杵伸浩・小川紀一朗・吉野弘祐 (2009) : 天然ダムの越流浸食の低減手法に関する研究, 平成 21 年度砂防学会研究発表会概要集, p.46-47.
- 森俊勇・坂口哲夫・澤陽之・白杵伸浩・柏原佳明・吉野弘祐 (2009) : 天然ダムの危険度分析及び緊急対策現場の安全管理に関する一考察, 平成 21 年度砂防学会研究発表会概要集, p.54-55.
- 森俊勇・水山高久・吉野弘祐・白杵伸浩 (2011) : プータンにおける天然ダム形成・決壊の事例と越流決壊に伴う洪水流量予測, 平成 23 年度砂防学会研究発表会概要集, p.400-401.
- Mori T., Sakaguchi T., Sawa Y., Mizuyama T., Satofuka Y., Ogawa K., Usuki N. & Yoshino (2010): Method of estimation for flood discharges caused by overflow erosion of landslide dams and its application in as a countermeasure, Interpraevent 2010, International Symposium in Pacific Rim, Taipei, Taiwan, p.293-302.
- Mori T., Chiba M., Mizuyama T. & Satofuka Y. (2010): Estimation of flood discharge caused by landslide dam overflow erosion and the application of countermeasures, IJECE, Vol.3, No.1, p.69-79.
- Lin Luo (2008) : Great Schuan Earth and its Impact on Hydraulic Infrastructura, Hydrolisk
- 山田正雄・蔡飛・王功輝 (2010) : 中国をよく知る地すべり研究者の四川大地震と山地災害, 理工図書株式会社, 199p.
- 驚敷町 (1990) : 80 年のあしあと, 198p.
- Xiao Q. C., Peng C., Yong L. & Wan Y. Z. (2009) : Emergency response to the Tangjiashan landslide-dammed lake resulting from the 2008 Wenchuan Earthquake, China, landslide: 10.1007/s10346-010-0236-6, 8p.

4章・引用・参考文献

- 井上公夫・堀内成郎・西本晴男・澤陽之（2010）：大規模土砂災害の初動対応に関する一提案，平成22年度砂防学会研究発表会概要集，p.156-158.
- 草野慎一・中島一郎・福本晃久・中原誠志・坂口哲夫・河合水城・飯沼達夫・松尾環・石井秀樹・平松晋也（2010）：天龍川上流域における大規模土砂災害に対する地域連携の取り組み，平成22年度砂防学会研究発表会概要集，p.140-141.
- 国土交通省（2008.3）：大規模土砂災害危機管理計画策定のための指針
- 国土交通省（2009.3）：大規模な河道閉塞（天然ダム）の危機管理のあり方について（提言）
- 国土交通省国土技術政策総合研究所危機管理技術研究センター砂防研究室（2010.7）：天然ダム形成時対応の基本的考え方（案），92p.，参考資料，50p.
- 国土交通省砂防計画課・土木研究所土砂管理研究グループ（2010.12素案）：土砂災害防止法に基づく緊急調査実施の手引き（天然ダム対策編），42p.
- 国土交通省砂防計画課・国土技術政策総合研究所危機管理技術研究センター・土木研究所土砂管理研究グループ（2011.4）：土砂災害防止法に基づく緊急調査実施の手引き（河道閉塞による土砂災害対策編），39p.
- 国土交通省砂防部（2008.2）：地震後の土砂災害危険箇所等緊急点検要領（案）
- 国土交通省北陸地方整備局（2004a）：「平成16年新潟県中越地震」による被害と復旧状況（平成16年11月15日現在），16p.
- 国土交通省北陸地方整備局（2004b）：「平成16年新潟県中越地震」による被害と復旧状況（第2報）～復旧から復興へ～，（平成16年12月28日現在），16p.
- 後藤宏二・儘田勉・笠原治夫・田口和男・川崎孝行・酒井順・三木洋一（2010）：群馬県の災害時要援護者関連施設における警戒避難計画の検討，平成22年度砂防学会研究発表会概要集，p.148-149.
- 後藤宏二・儘田勉・富沢今朝雄・田口和男・瀧上守・酒井順・三木洋一・佐光洋一・屋木わか（2011）：災害時要援護者関連施設における防災訓練を踏まえた警戒避難訓練の検証について，平成23年度砂防学会研究発表会概要集，p.194-195.
- 後藤宏二・儘田勉・大浦二郎（2011）：投下型水位観測ブイ設置・観測訓練，平成23年度砂防学会研究発表会概要集，p.194-195.
- 坂口哲夫・西本晴男・渡部康弘・河合水城・千葉幹・小林浩・澤陽之・宮貴大（2010）：大規模土砂災害を想定した防災訓練の効果的な実施に向けての一提案，平成22年度砂防学会研究発表会概要集，p.158-159.
- 坂口哲夫・西本晴男・河合水城（2010）：大規模土砂災害時の国と地方自治体との連携対応について，平成22年度砂防学会研究発表会概要集，p.164-165.
- 坂口哲夫・渡部文人・佐光洋一（2011）：土砂災害防止法の一部改正に伴う危機管理訓練について，平成23年度砂防学会研究発表会概要集，p.192-193.
- 砂防フロンティア整備推進機構（2005）：大規模な天然ダムの形成・決壊を対象とした異常土砂災害対応マニュアル（案）
- 塩野康浩・池田一・安養寺信夫・中野泰雄・後藤宏二・儘田勉・塩野邦彦（2010）：浅間山での噴火レベル5を想定したロールプレイング方式防災訓練，平成22年度砂防学会研究発表会概要集，p.58-59.
- 渋谷研一・江藤雅佳子・水野正樹・安斎徳夫・熊澤至朗（2011）：天然ダム形成確認調査のためのヘリコプター搭載レーザー計測機器について，平成23年度砂防学会研究発表会概要集，p.532-533.
- 水野秀明（2011）：緊急調査マニュアル（河道閉塞）の解説及び演習（1），平成23年度専門課程大規模土砂災害緊急調査研修テキスト，国土交通省国土交通大学校，39p.
- 水野秀明・小山内信智（2009）：迫川で形成した河道閉塞（天然ダム）の危険度評価に関する考察，国総研資料，522号，55p.
- 水野秀明・小山内信智（2009）：河道閉塞（天然ダム）の形成による土砂災害リスクの低減対策に関する研究，砂防学会誌，62巻6号，p.24-29.
- 水野秀明・小山内信智・戸欣也（2009）：平成20年岩手・宮城内陸地震によって形成した河道閉塞（天然ダム）の決壊危険度評価についての考察，平成22年度砂防学会研究発表会概要集，p.556-557.
- 水野秀明・清水武志（2011）：土石流氾濫シミュレーション演習（1），平成23年度専門課程大規模土砂災害緊急調査研修テキスト，国土交通省国土交通大学校，39p.
- 大規模な河道閉塞（天然ダム）の危機管理に関する検討委員会（2009）：大規模な河道閉塞（天然ダム）の危機管理のありかたについて（提言），15p.
- 田村圭司・前田昭浩・水田貴夫・松尾陽一・三木洋一・坂口哲夫・大矢幸司・小林浩（2011）：島原半島地域での大規模土砂災害に関する防災訓練と危機管理の課題，平成23年度砂防学会研究発表会概要集，p.548-549.
- 天然ダム対策工事研究会（2010.11）：天然ダム対策工事マニュアル（案）
- 土木研究所土砂管理研究グループ，火山・土石流チーム（2008.11）：深層崩壊の発生の恐れのある溪流抽出マニュアル（案），土木研究所資料，4115号，21p.
- 土木研究所土砂管理研究グループ，火山・土石流チーム（2009.1）：深層崩壊に起因する土石流の発生危険度評価マニュアル（案），土木研究所資料，4129号，34p.
- 土木研究所土砂管理研究グループ火山・土石流グループ（2010.10）：天然ダム監視技術マニュアル（案），土木技術資料，No.4121，113p.
- 北陸地方整備局中越地震復旧対策室・湯沢砂防事務所（2004）：平成16年（2004年）新潟県中越地震 芋川河道閉塞における対応状況，12p.
- 森俊勇・堀内成郎・宮川学（2010）：大規模土砂災害時を想定した災害時緊急Webサイトについて，平成22年度砂防学会研究発表会概要集，p.166-167.
- 森俊勇・渡部文人・河合水城（2011）：ヘリから撮影した写真等を利用した簡易図化による天然ダム地形（規模）の把握について，平成23年度砂防学会研究発表会概要集，p.48-49.
- 渡部文人・前田昭浩・高場悦郎・松尾陽一・坂口哲夫・井上公夫・渡部康弘・小林浩（2010）：雲仙岳における大規模土砂災害危機管理について，平成22年度砂防学会研究発表会概要集，p.322-323.

中村浩之・土屋智・井上公夫・石川芳治編著

社団法人 砂防学会 地震砂防研究会

地震砂防 2000年2月 古今書院発行

目次

口絵 (編集責任者: 井上公夫)

まえがき (中村浩之)

第1章 地震の発生と地震動 _____ 1

(編集責任者: 中村浩之)

1.1 はじめに(川邊洋) _____ 1

1.2 地震の発生メカニズムと活断層(川邊洋) _____ 1

1.3 地震動の性質(川邊洋) _____ 8

第2章 地震による崩壊発生(中村浩之) _____ 14

2.1 はじめに _____ 14

2.2 地震による地盤災害 _____ 14

2.3 斜面安定と地震力 _____ 20

第3章 地震による大規模崩壊と土砂移動 _____ 28

(編集責任者: 土屋智)

3.1 はじめに(土屋智) _____ 28

3.2 大谷崩れ(土屋智) _____ 28

3.3 七面山崩壊(土屋智) _____ 32

3.4 白鳥山崩壊(土屋智) _____ 35

3.5 加奈木崩れ(千木良雅弘) _____ 38

3.6 雲仙眉山崩壊(川邊洋) _____ 41

3.7 御岳大崩壊(吉松弘行) _____ 45

第4章 直下型地震による土砂移動 _____ 52

(編集責任者: 石川芳治)

4.1 はじめに(石川芳治) _____ 52

4.2 善光寺地震(井上公夫) _____ 52

4.3 関東地震(井上公夫) _____ 60

4.4 北丹後地震(石川芳治) _____ 70

4.5 今市地震(川邊洋) _____ 76

4.6 兵庫県南部地震(沖村孝) _____ 83

4.7 鹿児島県北西部地震 _____ 88

(地頭蘭隆・下川悦郎)

第5章 地震による土砂移動の予測(井上公夫) 102

5.1 はじめに _____ 102

5.2 地震による土砂移動現象の特徴 _____ 102

5.3 地震による土砂災害の発生要因 _____ 114

5.4 崩壊面積率による予測 _____ 118

第6章 土砂移動シミュレーション _____ 121

(中村浩之)

6.1 はじめに _____ 121

6.2 計算手法の概要 _____ 121

6.3 解析事例 _____ 127

6.4 摩擦係数と運動様式 _____ 132

第7章 米国による予測手法(石川芳治) _____ 136

7.1 はじめに _____ 136

7.2 米国における地震発生メカニズム _____ 136

7.3 米国における地震による土砂災害の概要 _____ 136

7.4 土砂移動現象の発生限界予測 _____ 140

第8章 地震による土砂災害の回避(石川芳治) _____ 156

8.1 震前対策 _____ 156

8.2 震後対策 _____ 159

索引(井上公夫) _____ 183

目次

口絵

はじめに (田畑茂清)

第1章 天然ダムによる災害事例の収集 _____ 1

1.1 事例の収集 _____ 1

1.2 災害事例カルテの記入方法 _____ 6

第2章 天然ダムによる災害事例 _____ 8

2.1 姫川・真那板山 (1502?) _____ 8

2.2 天正地震 (1586) と帰雲山 _____ 10

2.3 琵琶湖西岸地震 (1662) と町居崩れ _____ 10

2.4 日光・南会津地震 (1683) と五十里洪水 _____ 18

2.5 宝永地震 (1707) と大谷崩れ _____ 19

2.6 高知県:上葦生川・堂の岡 (1788) _____ 20

2.7 善光寺地震 (1847) _____ 21

2.8 鳶崩れ (1858) _____ 24

2.9 磐梯山の噴火 (1888) _____ 24

2.10 十津川災害 (1889) _____ 26

2.11 松川・ガラガラ沢 (1891) _____ 26

2.12 濃尾地震 (1891) _____ 28

2.13 徳島県:那賀川・高磯山 (1892) _____ 28

2.14 徳島県:海部川・保瀬 (1892) _____ 29

2.15 福島県:半田新沼 (1901) _____ 29

2.16 稗田山崩れ (1911) _____ 29

2.17 焼岳噴火 (1915, 26) と大正池 _____ 31

2.18 関東地震 (1923) と震生湖 _____ 32

2.19 大和川・亀の瀬地すべり (1931~33) _____ 33

2.20 大分県:番匠川・大刈野 (1943) _____ 37

2.21 今市地震 (1949) と小規模な天然ダム _____ 38

2.22 有田川災害 (1953) _____ 39

2.23 小渋川・大西山崩壊 (1961) _____ 39

2.24 姫川・小土山地すべり (1971) _____ 41

2.25 西吉野村・和田地すべり (1982) _____ 41

2.26 長野県西部地震・御嶽崩れ (1984) _____ 43

2.27 神戸市・清水の天然ダム (1985) _____ 43

2.28 長野県鬼無里村の天然ダム (1997) _____ 43

2.29 新潟県上川村の天然ダム (2000) _____ 45

第3章 天然ダムとその決壊の特徴 _____ 50

3.1 天然ダムの特徴 _____ 50

3.2 天然ダムの決壊とその特徴 _____ 53

第4章 地震による天然ダムの形成と決壊 _____ 63

4.1 御嶽山・長野県西部地震 (1984) _____ 63

4.2 濃尾地震 (1891) _____ 71

第5章 降雨による天然ダムの形成と決壊 _____ 86

5.1 十津川災害 (1889) _____ 86

5.2 有田川災害 (1953) _____ 100

5.3 天然ダムの決壊時間 _____ 104

第6章 米国における天然ダムの事例 _____ 105

6.1 はじめに _____ 105

6.2 1983年の緊急事態 _____ 113

6.3 地すべり移動と調査 _____ 115

6.4 天然ダム対策 _____ 122

6.5 現在取り上げられている代替案 _____ 126

第7章 氷河による天然ダムの形成と決壊 (山田知充) _____ 129

7.1 危険な氷河湖 _____ 129

7.2 モレーン堰き止め氷河湖を育むデブリ氷河 _____ 130

7.3 氷河湖決壊洪水 _____ 130

7.4 モレーン堰き止め湖の決壊洪水の特徴 _____ 133

7.5 氷河湖の決壊頻度 _____ 134

7.6 氷河湖の決壊原因 _____ 135

7.7 氷河湖の形成 _____ 135

7.8 デブリ氷河の表面低下 _____ 136

7.9 氷河湖の拡大過程 _____ 137

7.10 モレーンの強度 _____ 139

7.11 氷河湖の分布 _____ 140

第8章 天然ダム決壊によるピーク流量の予測 _____ 143

8.1 天然ダムの決壊過程 _____ 143

8.2 天然ダムの越流侵食による決壊過程 _____ 144

8.3 Costa(1988)によるピーク流量の検討 _____ 144

8.4 天然ダムの決壊シミュレーションによるピーク流量の検討 _____ 149

8.5 ピーク流量の簡易予測手法 _____ 159

第9章 天然ダム決壊による下流域への影響予測 _____ 163

9.1 常願寺川と立山 _____ 163

9.2 鳶崩れ以前の地形面の推定 _____ 163

9.3 跡津川断層と飛越地震 _____ 167

9.4 飛越地震時の鳶崩れによる土砂流出 _____ 175

9.5 数値シミュレーションによる氾濫状況の再現 _____ 184

9.6 まとめと今後の問題 _____ 184

第10章 天然ダム形成時の対応と対策 _____ 187

10.1 天然ダムの概略・詳細調査 _____ 187

10.2 危険度予測・拡大予測・安定性の検討 _____ 190

10.3 住民避難と天然ダムの監視 _____ 193

10.4 応急対策と恒久対策 _____ 194

結 論 _____ 197

あとがき

本書の最終の校正作業中の2011年8月30日～9月6日に台風12号が襲来し、紀伊半島を中心として広範囲に連続降雨量が1000mm（奈良県上北山で最大1808.5mm、気象庁、2011年9月7日）を超える降雨がありました。国土交通省のレーダー雨量観測では、奈良県上北山村大台ヶ原で2436mmにも達しました。このため、多くの天然ダムが形成され、マスコミ関係では、土砂崩れダム、土砂ダム、堰き止め湖、天然ダムなどという用語が使われ、混乱した状態となりました。監修者・著者にもマスコミ関係から多くの取材がありました。

表1.1に示したように、今までにもこのような現象は色々な用語で表現されました。突然河道が閉塞され、上流部が湛水して徐々に水位が上昇して行く現象や満水後の決壊による洪水被害を目の当たりにした当時の住民や為政者は、大変な驚異を感じたことでしょう。

ヘリコプターからの観察によって、17ヶ所の天然ダム（土砂崩れダム）が認められましたが、そのうち5ヶ所は、堰き止め高が20mを超えていることが明らかとなったため、「土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律」（土砂災害防止法）の改正（2011年5月1日施行）に基づき、緊急調査対象地区に指定され、国土交通省近畿地方整備局が緊急調査を行いました。独立行政法人土木研究所が開発した投下型ブイ式水位計（2008年の岩手・宮城内陸地震時に開発）をヘリコプターから投下して設置し、常時観測（1時間毎に測定結果と降雨量を公開）しながら、天然ダムの状況を監視しました。それらの結果や越流・決壊時の氾濫シミュレーションをもとに、氾濫想定範囲などを推定し、「土砂災害緊急情報」として奈良県・和歌山県や関係市町村に通知しました。市町村長は土砂災害緊急情報を受けて、避難勧告・指示を出し、氾濫範囲の地域住民を避難させ、一部地域では警戒区域も設定されました。こ

のような天然ダムの土砂災害緊急情報による警戒・避難活動は、2011年5月から制度化され、台風12号後に初めて実施されたものです。

その後、9月18～21日の台風15号の襲来によって、再び豪雨（連続降雨量300～500mm、気象庁、2011年9月22日）となり、一部の天然ダムは満水となって、溢れ出しましたが、幸いにも土石流の発生には至りませんでした。

裏表紙袖の図は、1889年と1953年と今回の天然ダムなどの位置を示した図で、防災科学技術研究所の地すべり地形（移動体）分布図の上に追記してあります。また、防災科学技術研究所が把握した崩壊・大規模崩壊の地点も示しています。

前書である『天然ダムと災害』の5章や本書の2.9項でも詳述しましたように、明治22年（1889）8月19～20日の台風襲来によって、奈良県十津川流域では大規模な崩壊・地すべりが1146箇所、天然ダムが28ヶ所以上発生し（芦田1987では53箇所）、245名もの死者・行方不明者を出しました。しかし、明治大水害誌編集委員会（1989）によれば、和歌山県の富田川流域や秋津川流域を中心として、死者・行方不明者が1247名にも達していたことが記されていますが、砂防関係者でもあまり知られていないことでした。本書の2.9項では、和歌山県西牟婁郡の秋津川流域と富田川流域で天然ダム（5箇所が判明）が形成・決壊し、十津川流域よりも多い死者・行方不明者が出ていることを説明しました。

1889年と2011年の土砂災害（特に天然ダムの位置と決壊の有無）との比較検討を今後慎重に行う必要があります。1889年には表1.3に示したように、和歌山・奈良県で33ヶ所の天然ダムの位置・形状が判明していますが、そのうち半分近くの16ヶ所が1日以内、4ヶ所が1日～10日未満、4ヶ所が10日～1ヶ月未満、1ヶ所が4年後に決壊し、現存している天然ダム（大畑瀨）は1ヶ所に過ぎませ

ん。この大畑滞は、台風12号時の降雨により越流侵食が進み、台風15号の接近に伴って、下流域に避難勧告が出されました。

1889年の災害では、十津川本川沿いで多くの天然ダムが形成され、その後ほとんどの天然ダムが決壊し、本川の河床が50m前後上昇して、険しいV字谷から少し谷底の広い谷地形に変わったと言われています。一方、2011年の台風12号による天然ダムは十津川の流域で多く形成されました

(本川沿いでも数ヶ所で発生しましたが、比較的規模も小さく、1日以内に決壊しています)。このため、各天然ダムへの流入量は比較的少なく、すぐには満水になりませんでした。また、河道閉塞した物質がかなり硬質な岩屑(新潟県中越地震時のような軟質な土砂ではない)からなるため、角礫の隙間から流入水が湧出したことも、越流・侵食や大規模な土石流の発生に至らなかった要因の一つだと思います。しかし、河道閉塞した岩屑が不安定な状態で堆積していますので、今後の豪雨や地震によって、大規模な土石流が発生する可能性があります。表1.3によれば、天然ダム形成後、数ヶ月・数年・数十年後に決壊している事例もありますので、十分な監視が必要だと思います。

また、国土交通省水管理・国土保全局砂防部や近畿地方整備局が総力を上げて恒久的な対策に取り組まれており、早期に地域が復興されることを期待いたします。

今回のような災害現象を含め、本書が天然ダムの形成・決壊により引き起こされる土砂災害の軽減に向けて、基礎的な情報提供の一助となれば幸

いです。

なお、表1.3で61災害168事例の天然ダムをリストアップすることができましたが、個々の数値については修正すべき点があると思いますので、お気付きの方は教えて下さい。また、この一覧表には記載されていない事例をご存じの方は教えて下さい。一方、河道閉塞の痕跡地形が残り、天然ダムが形成されたことが明らかな事例(14C年代が分かっている)も多くありますが、表1.3には記載しませんでした。これらの事例についても、今後リストアップしていきたいと思います。

本書をまとめるにあたって、国土交通省水管理・国土保全局砂防部、気象庁、国土地理院、国土技術政策総合研究所、各地方整備局、各事務所、関係都道府県・市町村、独立行政法人土木研究所などの公開資料を引用させて頂きました。また、独立行政法人防災科学技術研究所社会防災システム研究領域災害リスク研究ユニットの井口隆総活主任研究員から、斜め航空写真や地すべり地形分布図を提供して頂きました。貴重な絵図や文献図表・写真の掲載許可を頂いた所蔵機関・所蔵者の各位に厚く御礼申し上げます。

最後に、図・表・写真の整理などを手伝って頂いた財団法人砂防フロンティア整備推進機構の職員や協力機関の方々に感謝いたしますと共に、本書の出版にあたり、種々のアドバイスを頂いた古今書院編集部、関田伸雄氏に深く感謝いたします。

2011年10月

著者一同

本書の出版直前の2011年9月に、台風12号が紀伊半島を襲来し、各地に天然ダムが形成され、激甚な災害が発生しました。その後、国土交通省近畿地方整備局や奈良県・和歌山県などのご尽力によって、天然ダム対策は徐々に進んでいます。

本書に対しては、田村先生や太田先生から適切な書評を頂きました。また、出版直後から著者にも多くの問い合わせがありました。白黒出版としたため、図が分かりにくいという指摘を多く受けました。このため、出版後に指摘を受けた点や誤字・脱字などを修正し、カラー原稿をそのままpdf化して、カラーweb版として当機構のホームページで公開することにしました。

本書(カラーweb版)が、これからの天然ダム対策に少しでも役立つことを希望致します。

監修者

水山 高久 みずやま たかひさ
京都大学大学院農学研究科教授 水山高久

編著者

森 俊勇 もり としお (第3章)
一般財団法人砂防フロンティア整備推進機構 理事長
坂口 哲夫 さかぐち てつお (第4章)
一般財団法人砂防フロンティア整備推進機構 理事
井上 公夫 いのうえ きみお (第1, 2章)
一般財団法人砂防フロンティア整備推進機構 技師長 井上 公夫

分担執筆者

檜垣 大助 ひがき だいすけ (1.5項, 2.7項, 2.8項)
弘前大学農学生命科学部地域環境工学科 教授
土志田 正二 どしだ しょうじ (1.2項)
独立行政法人防災科学研究所 社会防災システム研究領域 災害リスク研究ユニット
千葉 幹 ちば みき (1.4項)
財団法人砂防フロンティア整備推進機構 企画調査部
服部 聡子 はっとり さとこ (2.1項)
アジア航測株式会社 防災地質部 SABO 課
町田 尚久 まちだ たかひさ (2.1項)
立正大学大学院地球環境科学研究科博士課程
鈴木 比奈子 すずき ひなこ (2.1項)
独立行政法人防災科学研究所 社会防災システム研究領域 アウトリーチ・国際研究推進センター
白石 睦弥 しらいし むつみ (2.7項)
弘前大学大学院特別研究員
古澤 和之 ふるさわ かずゆき (2.7項)
弘前大学農学生命科学部地域環境工学科 (現宮城県東部地方振興事務所)

書名 **日本の天然ダムと対応策**

コード ISBN978-4-7722-6110-4 C3051
発行日 2011年10月29日 初版第1刷発行

監修者 **水山 高久**

Copyright c2011 MIZUYAMA Takahisa
発行者 株式会社古今書院 橋本寿資
印刷所 三美印刷株式会社
製本所 三美印刷株式会社
発行所 **古今書院**
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 2-10
WEB <http://www.kokon.co.jp>
電話 03-3291-2757
FAX 03-3233-0303
振替 00100-8-35340
検印省略・Printed in Japan